



ユーザーガイド

Amazon Connect の決定



Amazon Connect の決定: ユーザーガイド

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

Amazon Connect の決定とは	1
利点	1
機能	2
主要な概念と用語	3
決定	3
計画	3
ホームページについて	6
主要なメトリクス	6
本日の上位トピック	7
自然言語インターフェイス (NLI)/意思決定チームメイト	8
ナビゲーションバー	9
オンボーディング	11
Amazon Connect Decisions のオンボーディング	11
前提条件	11
決定	13
Insights とは	13
決定の仕組み	13
このセクションの内容	14
Insights の設定	15
ベストプラクティス	15
Insights はどのように生成されますか?	16
ナレッジソース	19
検出 (メトリクスとルール)	20
根本原因と推奨事項のガイドライン	24
優先順位付けと重要度	26
Insights の管理	27
インサイトの管理の対象	27
このセクションの内容	28
インサイトのフィルタリングとソート	28
Insights の詳細	36
レコメンデーションに基づく行動	43
Insights に関するフィードバックの提供	48
プラン	50
Amazon Connect の決定による計画	50

Demand Planning	50
前提条件	50
Demand Intelligence とは	51
データエンティティ	51
需要計画の作成と設定	59
計画の確認と分析	61
予測の編集	62
予測パフォーマンスのモニタリング	63
需要計画の発行	64
次の計画サイクルの需要計画を再実行する	64
予測を理解する	64
Demand Planning Teammate のその他の機能	65
供給計画	67
このセクションの内容	67
新しいプランの作成	68
プランパラメータの設定	69
プランの確認と編集	70
供給計画の発行	71
一般的な問題と解決策	72
一般的なデータの問題	72
需要履歴の日付形式が混在している	72
注文履歴の負の数量	72
レコード数がソースシステムと一致しません	72
ERP に存在しない注文がシステムに表示される (またはその逆)	72
プラン入力ファイルには、他の工場やビジネスユニットの製品が含まれます。	73
一般的な例外と推奨事項の問題	73
同じ product+site が例外リストに複数回表示される	73
レコメンデーションがグラフに表示されるものと一致しない	73
影響日または「Act By」の日付が間違っているように見える	74
ERP で見つからないレコメンデーションリファレンスオーダー	74
一般的な精度の問題	74
予測が単純移動平均よりも大幅に悪い	74
過大予測バイアス (予測が実績よりも体系的に高い)	75
過小予測バイアス (実績よりも体系的に低い予測)	75
予測精度は、より長い期間に大幅に低下します	76
外部予測 (EDI/顧客予測) をコンセンサスルールを使用すると精度が向上しない	76

計画ルールが有効でない	77
コンセンサスプランの出力がベースライン予測と同じである	77
コンセンサスルールが間違っ た製品やサイトに適用される	78
予測値は小数 (2,500.37 ユニットなど)	78
前処理ルールを追加した後、製品カバレッジが大幅に低下する	79
.....	lxxx

Amazon Connect の決定とは

Amazon Connect Decisions は、AI チームメイトと連携するサプライチェーンの計画とインテリジェンスのソリューションです。チームは需要シグナルをコンセンサス予測に調整し、制約を考慮した供給計画を作成し、運用を積極的にモニタリングして問題を防止し、問題を解決し、継続的な改善の根本原因を特定します。

AI チームメイトは、運用手順とルールに基づいて、既存のシステムと統合し、実践者の意思決定から学ぶなど、作業方法に適応します。Amazon サプライチェーンの専門知識を活用して、1 日目から効果的な計画と推奨事項を提供します。

調整を処理してアクションを実行する AI エージェントチームを主導し、サービスレベルと運転資本効率を促進する戦略的意思決定に集中できます。

利点

ビジネスに適応する

AI チームメイトは、ビジネス、システム、意思決定に適応し、既存のワークフロー内で迅速に変革を実現します。運用手順とビジネスルールに基づいて、チームメイトは既存の計画システムと ERP システムを使用します。プランナーの決定から学び、優先順位に合わせ、知識を体系化し、時間の経過とともに運用が改善し、すべてのチームメンバーがより効果的になります。

今後の一歩先に行く

24 時間 365 日の調整作業を処理する AI エージェントチームを率い、需要シグナルの伝達、制約対応計画の生成、承認されたアクションの実行を行います。また、チームメイトは、何千もの SKUs、問題になる前に重要なものを明らかにします。プランナーは、ビジネスの成果を促進する戦略的意思決定を通じて、事後対応型火災対策から事前対応型計画に移行し、より効果的な運用を実行し、サービスレベルを改善します。

1 日目から信頼を構築する

AI チームメイトは、30 年以上にわたって 400M 個以上の Amazon SKUs を管理し、25 個以上の専門的なサプライチェーンツールを備えたサイエンスに支えられています。チームは、世界でも最も複雑なサプライチェーンネットワークの 1 つによって評価されたドメインの専門知識を活用し、信頼できる説明可能な明確な推論 out-of-the-box ですぐに実用的なインサイトとレコメンデーションを提供します。

機能

アダプティブインテリジェンス

AI チームメイトは、パターンの監視、重要なことの検出、アクションの推奨、承認された決定の実行など、継続的なループを通じてすべての計画と決定から学習します。これにより、プランナーが退職しても専門知識は維持され、新メンバーは初日から生産性が上がり、手動の再トレーニングなしで成果が向上します。

需要インテリジェンス

AI チームメイトは、Amazon データでトレーニングされた 18 以上の予測ツールと基盤モデルを動的に調整し、SKU レベルで自律的に最適化します。履歴が限られている場合でも、1 日目から正確な予測を生成します。精度を継続的にモニタリングしながら、コンセンサスプランニングを通じて統計予測、顧客コミットメント、部門間の入力を調整します。

供給インテリジェンス

AI チームメイトは、将来を見据えた供給計画 (プレビュー) を作成し、影響別にランク付けされた戦略的意思決定に例外をインテリジェントにクラスター化します。ネットワーク全体で制約対応計画の最適化モデルを実行します。オペレーションを 24 時間 365 日モニタリングし、重要なことを明らかにし、承認済みの決定を既存のシステムに直接実行して、サイクルを数週間から数時間に短縮します。

エージェントオンボーディング

AI を活用したオンボーディングエージェントは、自然言語会話によるセットアップをガイドします。JDBC または Amazon S3 を介してフラグメント化されたデータを接続し、Connect Decisions 用に準備し、予測に影響を与える前に問題に自動的にフラグを付けます。リアルタイムプレビューを使用して、ビジネスルールとポリシーをプレーン言語で設定します。数か月ではなく数週間で運用できます。

主要な概念と用語

決定

- **インサイト:** プロアクティブサプライチェーンモニタリングの標準リソース。Insights は、例外検出、根本原因分析、推奨されるアクションを組み合わせ、オペレーションに影響を与える前にサプライチェーンの問題を特定して解決するのに役立ちます。
- **例外:** サプライチェーンのパフォーマンスが予想しきい値またはビジネスルールから逸脱する特定のインスタンス。例外は、メトリクスがルールで定義された条件を超えたときに生成される個々のアラートまたは通知です (例: 「製品 A の予測精度がサイト B で 72% に低下しました」)。
- **メトリクス:** サプライチェーンのパフォーマンスを評価する定量化可能なメジャー。メトリクスは、モニタリング対象 (予測精度、インベントリレベル、カバー日数など) と、データ全体でこれらの測定値を計算する方法を定義します。
- **ルール:** 例外 (インサイト) を生成するタイミングを定義するビジネスロジック。ルールは、メトリクスに基づいてインサイトをトリガーするしきい値、条件、基準を指定します (例: 「A クラス製品の予測精度が 85% を下回ると例外を生成する」)。メトリクスとルールは連携してインサイトを生成します。メトリクスは何を測定すべきかを定義しますが、ルールはそれらのメトリクスをしきい値と照らし合わせて評価し、インサイトを生成するタイミングを決定します。たとえば、予測精度メトリクスはパフォーマンスを計算し、ルールは、そのメトリクスが A クラス製品で 85% を下回るとインサイトをトリガーします。
- **根本原因:** 例外が発生した理由を説明する AI を活用した調査。根本原因分析では、寄与要因、データパターン、コンテキスト情報を調べて、パフォーマンス偏差の根本的な理由を特定します。
- **推奨事項:** 例外を解決するために AI が生成した推奨アクション。推奨事項には、根本原因に対処し、通常のオペレーションを復元するための具体的で実用的な手順が記載されています。
- **エージェントガイドライン:** 例外を分析してレコメンデーションを生成する際の AI エージェントの動作をガイドする手順。これらのガイドラインには、ビジネスポリシー、運用上の制約、意思決定設定が組み込まれています。
- **重要度要因:** 財務上の影響が例外の優先順位付けにどのように影響するかを決定する構成設定。重要度要因は、最もビジネスクリティカルな問題を最初に浮き彫りにするのに役立ちます。

計画

以下は、Demand Planning で使用される一般的な用語です。

- ベースライン予測 – システムが履歴データを使用して予測を生成することを指します。なんらかの上書きを適用する前の初期需要予測が提供されます。
- データセット – 販売注文履歴や製品情報など、予測の生成に使用するデータのコレクションです。
- 需要計画サイクル – 需要計画の作成と最終化にかかる時間です。これには、予想の生成、ステークホルダーとの協力による需要計画の調整と公開などがあります。
- 需要計画 – 計画は定義された期間に対して作成され、ローリングタイムウィンドウ (計画サイクル) を通じて定期的に更新されます。各需要計画には、計画サイクル内に複数のバージョンを含めることができ、計画サイクル内に受信した増分データの計画の改良をサポートします。需要計画には、次のようなステータスを表示できます。
 - 保留中 – 計画設定は作成されますが、計画作成には送信されません。
 - 進行中 – 計画設定は計画作成のために送信され、計画は予測生成のために進行中です。
 - Failed – 計画予測が失敗しました。問題を解決するには、E メールとアプリ内通知を探します。
 - レビュー中 – 計画サイクルが開いており、予測を編集できます。
 - 最終 – 計画サイクルは終了し、予測を編集することはできません。ただし、需要計画は表示できます。
- 予測設定 – 予測生成の計画を管理する一連の計画条件。これには、Demand Planning による予測の生成方法に影響する計画サイクル設定、期間の詳細度、階層設定などがあります。
- 予測の詳細度 – 予測の作成方法と管理方法を定義します。製品、ロケーション、顧客、チャネルの各ディメンションを組み合わせて使用できます。データセット内の製品ごとに、予測データを日、週、月、または年ごとに集計する時間間隔を選択することもできます。例えば、予測の詳細度が日次に設定されている場合、データセット内の各製品の予測は日次で表示されます。

Note

Demand Planning では、計画にグレゴリオ暦が使用されます。デフォルトの週の開始日は月曜日です。

- 上書き – システムが生成した予測に対して行う変更を指します。
- 計画期間 – 予測が生成される将来の期間の合計。予測開始日から測定されます。計画期間は、タイムバケット (日単位、週単位、月単位) と計画期間の長さを組み合わせて決定されます。たとえば、26 週間の計画期間を持つ週次計画では、予測開始日から次の 26 週間をカバーする予測が作成されます。
- 製品ライフサイクル – 製品ライフサイクルとは、導入からサポート終了 (EoL) までの製品のさまざまな段階を指します。

- 公開された需要計画 – 計画の最終出力。最終化された需要計画を下流の在庫システムと供給計画システムに公開して実施することを選択できます。

ホームページについて

Amazon Connect Decisions へようこそ。ホームページは、サプライチェーンの意思決定インテリジェンスの中心的なハブです。このガイドでは、ホームページの各セクションを順を追って行動を開始できるように順を追って説明します。ホームページは、セクション 1: メトリクス、セクション 2: 今日のトピックピックアップ、セクション 3: 自然言語インターフェイス (NLI) / 決定チームメイト、セクション 4: ナビゲーションバーの 4 つの主要なセクションで構成されています。

The screenshot displays the Amazon Connect Decisions homepage. At the top, there's a navigation bar with 'Home', 'Insights', and 'Plans'. The main content area is titled 'Welcome to Amazon Connect Decisions, Megha'. It features five metric cards: 'Total Open Insights' (9,062), 'Low safety stock insight monitor' (1,611), 'Projected out of stock insight monitor' (1,507), 'Excess safety stock insight monitor' (1,338), and 'Days of cover insight monitor' (1,289). Below these is a 'Top topics for today' section with four categories: 'Highest financial impact insights', 'Most urgent insights to act on', 'In progress insights', and 'Overdue insights'. Each category has a 'Review' button. On the right side, there's a 'Decisions teammate' chatbot interface with a message: 'I'm your supply chain decisions teammate, let me know how I can help.' and an 'Ask a question' input field.

主要なメトリクス

ホームページの上部には、サプライチェーンの状態をリアルタイムでスナップショットできる最大 5 つのメトリクスカードが表示されます。マネージャーペルソナによって定義されたルールに応じて、これらのメトリクスは他のアカウントとは異なる場合があります。

メトリクス	説明
オープンインサイトの合計	すべてのモニターでアクティブなインサイトの合計数。今日作成された新しいインサイトの日次数が含まれます。
Low Safety Stock (サンプル)	在庫が安全在庫のしきい値を下回った SKUs を追跡します。

メトリクス	説明
予測在庫切れ (サンプル)	現在の需要と供給シグナルに基づいて、在庫切れのリスクがある項目にフラグを付けます。
過剰な安全在庫 (サンプル)	必要以上の在庫がある項目を特定し、運転資本を結び付けます。
カバー日数 (サンプル)	追跡対象アイテムの供給日数をモニタリングします。

各カードには以下が表示されます。

- そのカテゴリのオープンインサイトの現在の合計
- 午前 0 時以降に生成された新しいインサイトの数を示す 1 日あたりの増分 (たとえば、今日作成された +308)

Tip

任意のメトリクスカードをクリックして、そのカテゴリのインサイトの完全なリストをダウンロードします。

Note

管理者ペルソナには、データ検証エラーに関連するメトリクスと、アカウント内のユーザーの総数も表示されます。

本日の上位トピック

メトリクスの下に、「Top Topics for Today」セクションには、注意すべき最も重要なインサイトグループが表示されます。各トピックカードには、プランナーペルソナに関するインサイトの数とそれに関連する財務上の影響が表示されます。これらのトピックカードは、管理者の場合によって異なります。

トピックカード	インサイトの数 (サンプル値)	財務上の影響 (サ ンプル値)	意味
最大の財務上の 影響	73	10,530,538 USD	ドル価値が最も大きいインサイト。 最大 ROI については、ここから開始 します。
最も緊急な対応	100	991 USD	財務規模に関係なく、即時のアク ションを必要とする時間的制約のあ るインサイト。
進行中	13	1,694,240 USD	チームが積極的に取り組んでいるイン サイト。
期限超過	100	\$0	アクションの期限を過ぎ、即時の フォローアップが必要なインサイ ト。

各カードにはレビューボタンが含まれています。クリックすると、そのトピックのインサイトの完全なフィルタリングされたリストが表示されます。

Note

財務上の影響値は、在庫の露出と需要のシグナルに基づいてシステムが計算した見積りです。これは、管理者が Amazon Connect Decisions に財務情報を提供している場合にのみ表示できます。そうしないと、ゼロになります。

自然言語インターフェイス (NLI)/意思決定チームメイト

Decisions Teammate パネルは、ホームページの右側にあります。AI を活用したチームメイトであり、アプリケーションをナビゲートし、インサイトを解釈し、サプライチェーンの質問に答えるのに役立ちます。アプリケーション全体で常に使用できます。

使用方法:

1. 「質問する」テキストフィールドに質問を入力します。

2. チームメイトは、データとインサイトから導き出されたコンテキストに応じた回答で応答します。
3. 「今週の上位の在庫切れリスクは何ですか?」、「特定の製品またはリージョンに関するインサイトを表示する」、「ポートフォリオのカバー日数はどういう意味ですか?」などの質問をすることができます。

NLI を使用する最善の方法:

- 現在のサプライチェーンのインサイトと計画の簡単な概要が必要な場合。
- フィルターを手動で移動せずにインサイトを調べる場合。
- 特定のインサイト、根本原因、または推奨事項を理解する必要がある場合。
- 需要計画または供給計画について詳しく知りたい場合。
- システムによって生成されたインサイトや計画に関するフィードバックを共有する場合。

エージェントアプリケーションとして、詳細を確認し、アクションを実行し、フィードバックを共有するときはいつでも NLI を活用します。NLI の機能は、時間の経過とともに引き続き強化されます。

ナビゲーションバー

Amazon Connect Decisions は、プラットフォーム内を移動するのに役立つ 2 つのナビゲーション要素を使用します。

上部ナビゲーションバー

- Amazon Connect Decisions ロゴ – クリックして、どこからでもホームページに戻ります。
- ホーム – このホームページに戻ります。
- Insights – フィルタリング、ソート、詳細機能を使用して、完全な Insights ビューを開きます。
- 計画 – 需要計画や供給計画に移動します。
- 通知ベル – システムの更新を警告します。
- ユーザープロファイル – アカウント設定、設定、サインアウトオプションにアクセスします。

左サイドバーメニュー

- ホーム – ホームページショートカット。

- インサイト – 管理者がインサイトモニターとしきい値を管理できる設定を含むサブナビゲーションを表示するように展開します。
- 計画 – 需要と供給の計画ワークフローにアクセスします。
- 折りたたみ/展開ボタン – サイドバーを切り替えてワークスペースを最大化します。

 Tip

左側のサイドバーを折りたたむと、画面スペースを増やすことができます。

オンボーディング

Amazon Connect Decisions のオンボーディング

Amazon Connect Decisions のオンボーディングエージェントは、AI セットアップチームメイトとして機能し、インサイトモニタリングを設定する技術的な複雑さを抽象化します。SQL クエリを手動で定義したり、データスキーマをマッピングしたり、ビジネス要件を技術仕様に変換したりする代わりに、エージェントと会話してモニタリングシステムを設定します。

オンボーディングエージェントが役立つこと:

1. ビジネスコンテキストを理解する: 標準運用手順、ビジネスポリシー、運用ガイドラインを自然言語または既存のドキュメントをアップロードして共有します。エージェントはマテリアルを分析し、関連する設定パラメータを自動的に抽出します。
2. 要件を設定に変換する: モニタリングする内容をプレーン言語で記述します。たとえば、「高価値製品の予測精度を追跡する必要があります」や「在庫が安全在庫レベルを下回ったときに警告する」などです。エージェントは、SQL に関する知識を必要とせずに、これらのビジネス要件を適切なメトリクス定義、ルール、しきい値に変換します。
3. 設定の反復: 会話を通じてモニタリング設定を絞り込みます。「このルールをより機密性の高いものにできますか？」などの質問をします。または「特定の製品カテゴリのフィルタリング基準を追加する必要がありますか？」 エージェントは、変更をコミットする前にオプションを調べ、トレードオフを理解するのに役立ちます。
4. 本番稼働前の変更の検証: プレビュー関数を使用して、実際のデータに対して設定がどのように実行されるかを確認し、本番稼働用に変更を保存する前に、新しい設定で生成されるインサイトを確認できます。
5. トラブルシューティングと最適化: 設定で期待される結果が得られない場合は、何が表示されているかを記述します。エージェントは問題の診断と改善の推奨に役立ちます。

この会話型アプローチは、技術的な深い専門知識がなくても、高度なサプライチェーンのモニタリングを設定できることを意味します。AI チームメイトは、ビジネス要件と運用上の優先順位の定義に集中しながら、複雑さに対処します。

前提条件

前提条件

インサイトを設定する前に、以下を確認してください。

- Amazon Connect Decisions インスタンスは、設定および実行されているデータフローで設定されます
- 設定にアクセスするためのマネージャーロールのアクセス許可
- Supply Chain Data Lake にアップロードされる必須データエンティティには、以下が含まれます。
 - 過去の需要または売上データ (最低 12 か月を推奨)
 - 分類と属性を含む製品マスターデータ
 - サイトと位置情報
 - 現在の在庫状況
 - サプライヤーとリードタイムのデータ (供給モニタリングを設定する場合)
- アップロード用に準備された標準運用手順またはビジネスポリシー (オプションですが、設定を高速化するために推奨されます)

決定

Amazon Connect Decisions は、サプライチェーンを継続的にモニタリングして注意が必要な問題を検出し、解決するための実用的な推奨事項を生成します。このガイドの「ディシジョン」セクションでは、システムを効果的に動作させるために必要なすべてについて説明します。例えば、注意すべきことのトレーニングから、表示されるインサイトの確認と対応までについて説明します。

Insights とは

Insights は Amazon Connect Decisions の主な出力です。各インサイトは、検出されたサプライチェーンの問題を表し、根本原因分析とそれを解決するための推奨アクションと組み合わせています。インサイトは、設定されたモニタリングルールがメトリクスが定義されたしきい値を超えたことを検出したときに生成されます。たとえば、予測在庫が安全在庫の最小値を下回った場合や、供給日数が許容レベルを下回った場合などです。

各インサイトには以下が含まれます。

- 検出された問題とそのビジネスコンテキストの説明
- 問題が発生した理由を説明する根本原因分析
- 数量、場所、タイムラインなどの特定のパラメータを含む推奨アクション
- レスポンスの優先順位付けに役立つ財務上の影響 (管理者がデータを提供した場合)
- 同じ根本的な原因を共有する可能性のある関連するインサイト

Insights は、需要と供給の両方のモニタリングを対象としています。これらは財務上の影響に基づいて重要度別にランク付けされるため、チームは運用にとって最も重要な問題に集中できます。

決定の仕組み

決定は、設定と管理の 2 つのフェーズで連携して機能します。

設定は、Amazon Connect Decisions にモニタリングする対象、検出した対象を解釈する方法、チームに提示する対象を優先する方法を教える方法です。インサイトをトリガーするメトリクスとルールを定義し、根本原因の分析とレコメンデーションを形成するガイドラインを提供し、重要度ランキングを決定する財務的影響要因を割り当てます。設定はセットアップ中に 1 回完了し、運用ニーズの変化に応じて時間の経過とともに改善されます。

インサイトの管理は、システムが生成するインサイトを確認、フィルタリング、行動するday-to-day経験です。設定が完了すると、チームはインサイトページを使用して関連する問題を見つけ、根本原因を理解し、推奨されるアクションを実行または却下します。

このセクションの内容

Insights の設定

- インサイトの生成方法: サプライチェーンのデータと設定を実用的なインサイトに変換する 4 段階のプロセスを理解する
- ナレッジソース: SOPsと文書化されたビジネスベストプラクティスを共有して、Amazon Connect Decisions がメトリクス、ルール、ガイドラインを生成する前に運用コンテキストを理解できるようにする
- 検出: 需要または供給のモニタリングのためにインサイトがトリガーされるタイミングを決定するメトリクスとルールを定義します。
- 根本原因とレコメンデーションのガイドライン: 根本原因の分析とレコメンデーションを生成して、ビジネスプラクティスと運用上の制約に合わせる方法を形成する
- 優先順位付けと重要度: Amazon Connect Decisions がビジネス上の優先度別にインサイトをランク付けできるように、インサイトタイプに財務上の影響を割り当てる

インサイトの管理

- インサイトのフィルタリングとソート: Insights ページに移動し、製品階層、サイト、重要度、カスタムセグメントでフィルターを適用し、影響または緊急度でソートして、最も重要なことに焦点を当てます。
- インサイトの詳細について: 特定のインサイトの根本原因分析、主要なメトリクス、レコメンデーション、および関連するインサイトを確認します。
- レコメンデーションに対するアクションの実行: レコメンデーションを承諾、破棄、または完了としてマークし、解決アクティビティの進行状況を追跡する
- インサイトに関するフィードバックの提供: システムの改善に役立つインサイトとレコメンデーションの品質を経時的に評価する

Insights の設定

Insights 設定は、Amazon Connect Decisions に監視対象を教える方法、検出した内容を解釈する方法、およびチームに表示されるものを優先する方法です。設定は、需要と供給の両方のモニタリングに適用されます。一連の作業には、ナレッジソース、検出 (メトリクスとルール)、根本原因と推奨事項 (ガイドライン)、優先順位付け (重要度) の 4 つの領域があります。プレビューは各ステップで利用できるため、設定をアクティブ化する前に検証できます。

設定を開くには: ホームページから、左側のナビゲーションでインサイトに移動し、設定を選択します。

4 つの設定領域:

1. ナレッジソース: SOPsと文書化されたビジネスベストプラクティスを共有して、Amazon Connect Decisions がメトリクス、ルール、ガイドラインを生成する前に運用コンテキストを理解できるようにします。
2. 検出: 需要または供給のモニタリングのためにインサイトがトリガーされるタイミングを決定するメトリクスとルールを定義します。
3. ガイドライン: 根本原因の分析とレコメンデーションをビジネスプラクティスに合わせて生成する方法を形成します。
4. 重要度: Amazon Connect Decisions がビジネス優先度で Insights をランク付けできるように、インサイトタイプに財務上の影響を割り当てます。

設定が Insights 出力に接続する方法: 各エリアは Insights エクスペリエンスを直接フィードします。検出によって表面が決まります。ガイドラインによって分析と推奨されるアクションが決まります。重要度によってインサイトが表示される順序が決まります。任意のエリアへの変更は、関連する項目が準備完了ステータスに設定されるとすぐに有効になります。

ベストプラクティス

1. 明確なモニタリング目標から始める: メトリクスとルールを作成する前に、オペレーションにとって最も重要なサプライチェーンのパフォーマンス問題を定義します。これにより、過剰なアラートを生成するのではなく、焦点を絞った実用的なモニタリングを設定できます。
2. オンボーディングチームメイトを活用する: 技術仕様を作成するのではなく、自然言語を使用してモニタリングのニーズを記述します。「A クラス製品に対する感度を高めることはできますか？」などの質問をしてください。または「このフィールドは何を行いますか？」 Connect Decisions エージェントは、ビジネス要件を適切な設定に変換します。

3. 広範なプレビュー: メトリクスとルールの変更は、アクティブ化する前に必ずプレビューしてください。プレビュー関数を使用して、次の操作を行います。
 - メトリクスがデータに対して正しく計算されていることを確認する
 - ルールが適切なしきい値でインサイトをトリガーすることを確認する
 - プレビュー結果を製品やサイト別にフィルタリングして、サプライチェーン全体への影響を把握する
 - プレビュー結果が運用上のニーズと一致するまで設定を反復する
4. SQL の代わりに説明可能性を使用する: メトリクスとルールの動作を確認するときは、SQL クエリを直接調べるのではなく、説明可能性タブを使用します。これにより、技術的な複雑さなしに、ロジックを平易な言語で理解できます。期待と一致しないものが表示された場合は、エージェントと協力して説明可能性を通じて修正します。
5. ドラフトステータスで反復処理する: ドラフトステータスを利用して、本番インサイトに影響を与えずにメトリクスとルールを設定およびテストします。設定に自信がある場合にのみ、ステータスを準備完了に変更します。
6. バランス感度: 過剰なノイズを発生させずに意味のある例外をキャッチするしきい値を設定します。プレビューを使用して、アラートカバレッジと運用管理可能性の適切なバランスを見つけます。
7. シンプルから始めて展開する: 優先順位の高いモニタリングニーズに対応するためのいくつかの主要なメトリクスとルールから始めます。設定ワークフローに慣れたら、追加のモニタリング領域に拡張します。
8. 定期的に確認して絞り込む: メトリクスとルールをアクティブ化したら、生成されたインサイトの品質と関連性をプランニングインテリジェンスのホームページでモニタリングします。モニタリング設定に戻り、運用経験に基づいて設定を絞り込みます。

Insights はどのように生成されますか？

Amazon Connect Decisions は体系的なプロセスを使用して、サプライチェーンデータをモニタリングし、問題を検出し、実用的な推奨事項を含むインサイトを生成します。このプロセスを理解すると、効果的なルールを設定し、受け取ったインサイトを解釈するのに役立ちます。

インサイト生成プロセス

インサイトの生成は、サプライチェーンデータを実用的なインテリジェンスに変換する 4 段階のプロセスに従います。

1. メトリクスの計算

システムは、サプライチェーンデータに基づいてメトリクスを継続的に計算します。これらのメトリクスは、次のようなオペレーション全体のパフォーマンスを評価する定量化可能な測定値です。

- 予測インベントリレベル
- 供給日数
- インベントリのターン
- リードタイムの変動性
- 予測精度

メトリクスは、製品、サイト、製品サイトの組み合わせなど、定義した粒度で計算されます。システムは、設定した頻度 (毎日、毎週、または新しいデータが到着したとき) に基づいてこれらの計算を更新します。

2. ルールの評価

メトリクスが計算されると、Amazon Connect Decisions は設定されたメトリクスベースのルールに照らしてメトリクスを評価します。メトリクスベースのルールは、潜在的な問題を警告する特定の条件を定義します。

各メトリクスベースのルールには、次の 3 つの重要なコンポーネントが含まれています。

メトリクス: モニタリングされる定量化可能な測定値

しきい値: 交差したときにインサイトをトリガーする境界値

スコープ: ルールが適用される製品、サイト、またはその他のディメンション

たとえば、ルールには「予測在庫が安全在庫の最小在庫を下回ったときに警告し、在庫切れが 14 以下になり、顧客への影響リスクが 25,000 USD を超えるまで日数を警告する」と表示される場合があります。

ルールの条件が満たされると、システムは影響を受ける項目のインサイト生成プロセスを開始します。

3. 根本原因分析

ルールがトリガーされると、Amazon Connect Decisions は自動的に根本原因分析を実行して、問題が発生した理由を理解します。システム:

- 複数のディメンションに関連するサプライチェーンデータを検証する
- 履歴パターンと最近の変更を確認します。
- さまざまな要因 (需要、供給、在庫、注文) 間の関係を分析します
- ポリシーベースのルールを適用してビジネスコンテキストを提供する

ポリシーベースのルールは、システムが問題を検討および分析する方法に関する定性的なガイドラインを提供することで、この分析をガイドします。たとえば、ポリシーベースのルールには、「在庫不足に関するインサイトについては、常に需要予測エラー、サプライヤーリードタイムの問題、生産能力の制約」と表示されます。

根本原因分析は、問題の背後にある主な要因を特定し、寄与要因の詳細な説明を提供します。

4. インサイトの作成とレコメンデーションの生成

根本原因分析が完了すると、システムは以下を使用してインサイトを作成します。

- 問題の明確な説明
- 根本原因の説明
- 関連するメトリクスとデータの視覚化
- 設定した優先順位付け要因に基づく優先度分類
- 問題を解決するための推奨アクション
- 考慮すべき代替アクション

推奨事項は、ビジネスルール、運用上の制約、問題の特定のコンテキストに基づいて生成されます。システムは、レコメンデーションを策定する際に、他の場所で利用可能な在庫、サプライヤーのリードタイム、生産能力、財務上の影響などの要因を考慮します。

タイミングと頻度

インサイトは、メトリクスベースのルールで設定した頻度 (通常は毎日または毎週) に基づいて生成されます。システムは、データ更新スケジュールに従って新しいデータを処理し、メトリクスを再計算し、ルールを評価し、検出された新しい問題に関するインサイトを生成します。

新しいデータで問題が設定されたしきい値を満たさなくなったことがわかった場合、既存のインサイトは自動的に更新または完了としてマークされます。

ナレッジソース

ナレッジソースは、Amazon Connect Decisions と共有するドキュメントで、運用とモニタリング要件に関するコンテキストを提供します。Amazon Connect Decisions はこれらを分析し、その理解に基づいて、以降のステップでメトリクス、ルール、ガイドラインがどのように設定されているかを知らせます。一般的なソースには、SOPs、ビジネスポリシー、運用ガイドラインなどがあります。

共有する内容: 効果的なナレッジソースには、ビジネスの運営方法とサプライチェーンの例外の管理方法を説明するドキュメントが含まれています。以下に例を示します。

- インベントリ管理 SOPs (在庫切れへの対応方法、補充を迅速化するタイミング、安全在庫ポリシーなど)
- 需要計画ポリシー (季節的な需要への対応方法、プロモーションリフト、新製品の導入など)
- サプライヤー管理ガイドライン (リードタイムの前提、優先キャリアルール、エスカレーション手順など)
- 運用上の制約 (倉庫の容量制限、注文最小数、リージョンのフルフィルメントルールなど)

ドキュメントが実際のプロセスにより具体的であればあるほど、Amazon Connect Decisions はユーザーに代わって関連するメトリクス、ルール、ガイドラインを生成できます。

- サポートされている形式: PDF、Word、プレーンテキストのファイルがサポートされています。
- テンプレート: ナレッジソーステンプレートをダウンロードして、入力を構造化できます。既存のドキュメントがない場合は、開始点として使用します。

ナレッジソースを共有するには:

1. インサイト設定ページから、ナレッジソースタブを選択します。
2. 必要に応じてテンプレートをダウンロードして入力するか、既存のドキュメントを収集します。
3. アップロードをクリックしてファイルを選択します。Amazon Connect Decisions はドキュメントを処理し、追加の設定を生成する準備ができたことを確認します。

ヒント

- 複数のソースを共有して Amazon Connect Decisions に包括的なコンテキストを提供します。1 つの SOP が良い出発点ですが、関連するポリシーとガイドラインを追加すると出力品質が向上します。

- 追加のナレッジソースは、開始時だけでなく、設定中いつでも共有できます。ソースドキュメントを更新する場合は、新しいバージョンを共有して Amazon Connect Decisions を最新の状態に保ちます。
- ナレッジソースは参照コンテキストを提供し、メトリクス、ルール、ガイドラインを直接作成することはありません。検出とガイドラインの設定を使用して、Amazon Connect Decisions が学習した内容に対応します。

検出 (メトリクスとルール)

検出設定は、Amazon Connect Decisions が測定するものと、それらの測定値が需要と供給のモニタリングの両方で実用的なインサイトになるタイミングを定義します。これには、連携する 2 つのコンポーネントがあります。

- **メトリクス:** 定量化可能な計算 Amazon Connect Decisions は、サプライチェーンデータに対して実行されます。たとえば、A クラス製品の過去 4 週間の予測精度や、サイトごとの在庫日数などです。メトリクスは、スタンドアロン KPIs ことも、ルールへの入力として機能することもできます。
- **ルール:** 1 つ以上のメトリクスを参照し、しきい値が満たされたときに発射してインサイトをトリガーする条件。例えば、予測精度が 85% を下回ったとき、または供給日数が順序変更しきい値を下回ったときにトリガーするルールなどです。

メトリクスは測定値を提供します。ルールは、その測定値がチームが対処すべきものになるタイミングを決定します。

メトリクスの設定

Insights 設定タブには、設定されたメトリクスとルールが、Detection タブで生成されたインサイトのプレビューとともに表示されます。この統合ビューを使用すると、モニタリング設定と運用上の影響の両方を 1 か所で確認できます。

このページからは、以下を実行できます。

- 需要と供給の両方のモニタリング用に設定されたすべてのメトリクスとルールを表示する
- 個々のメトリクスまたはルールを編集する
- 現在の設定で生成される全体的なインサイトを確認する

新しいメトリクスの作成

新しいメトリクスを作成するには、次のいずれかを実行します。

- 自然言語を使用する: オンボーディングエージェントにメトリクスの作成を依頼します。例: 「過去 4 週間の A クラス製品の予測精度を追跡するメトリクスを作成する」 エージェントは、要件をメトリクス設定に変換します。
- メトリクスの作成ボタンを使用する: 「メトリクスの追加」をクリックしてメトリクス作成インターフェイスを開き、パラメータを直接定義します。

メトリクスを作成または編集すると、システムはメトリクスを「ドラフト」ステータスで保存します。これにより、本番環境のインサイトに影響を与えることなく、メトリクスを設定およびテストできます。

既存のメトリクスの確認

メトリクスをクリックすると、メトリクスレビューページが表示され、次のことができます。

- 設定を確認する: 記述子、ディメンションの粒度、時間範囲、その他のパラメータなど、メトリクスの現在の設定を確認します。
- 自然言語で質問する: オンボーディングチームメイトと協力して、メトリクスを理解して絞り込みます。次のような質問をします。
 - 「このメトリクスの仕組み」
 - 「これを A クラス製品のみに制限できますか？」
- エージェントは、ビジネス要件を適切な設定に変換して、メトリクス定義を会話的に反復するのに役立ちます。
- 説明可能性の確認: SQL クエリを直接確認する代わりに、メトリクスがプレーン言語でどのように動作するかを説明する説明可能性セクションを表示します。そのためには、
 - 「SQL クエリ」セクションを折りたたまない
 - 「説明可能性」タブをクリックします。
- 個々のメトリクスの影響をプレビューする: メトリクスプレビューを使用して、現在の設定で実行時にメトリクスがどのように生成されるかを確認します。特定の製品とサイトでプレビューをフィルタリングして、メトリクスがサプライチェーンのさまざまな部分にどのように影響するかを理解します。そのためには、次の操作を行います。
 - 画面の下部にある「メトリクスプレビュー」要素を展開します。
 - 「プレビューメトリクス」をクリックして、ランタイムメトリクスを生成します。

- 製品やサイト全体で検索条件を使用してプレビューを絞り込みます。
- プレビューを反復する: オンボーディングエージェントと協力してメトリクスを絞り込むときは、プレビューを使用して変更を検証します。プレビュー結果が運用上のニーズと一致するまで反復処理を続け、設定を保存します。

フィールドを直接編集する (オプション): メトリクスを自分で設定する場合は、「編集」をクリックして、エージェントサポートなしでフィールドを直接変更します。手動で編集しても、オンボーディングチームメイトに次のような質問をすることができます。

- 「このフィールドは何を行いますか？」
- 「予測精度 SQL を編集できますか？」
- 「週次レポート用の時間粒度はどのように設定すればよいですか？」

オンボーディングチームメイトは、直接編集インターフェイスで作業している場合でも、中間設定サポートを提供します。

メトリクスのアクティブ化

メトリクス設定とプレビュー結果に満足したら、次の操作を行います。

1. メトリクスのステータスをドラフトから準備完了に変更します。
2. メトリクスをアクティブ化するには、「変更の保存」をクリックします。

メトリクスは、設定されたしきい値に基づいて本稼働インサイトを再計算するようになりました。

ルールの設定

「インサイト」設定タブには、設定されたメトリクスとルールが「インサイト」タブで生成されるインサイトのプレビューとともに表示されます。この統合ビューを使用すると、モニタリング設定と運用上の影響の両方を 1 か所で確認できます。

新しいルールの作成

新しいルールを作成するには、次のいずれかを実行します。

- 自然言語を使用する: オンボーディングチームメイトにルールの作成を依頼します。例: 「A クラス製品の予測精度が 85% を下回ったときに警告するルールを作成します。」 エージェントは、要件をルール設定に変換します。

- ルールの作成ボタンを使用します。「ルールの追加」をクリックしてルール作成インターフェイスを開き、パラメータを直接定義します。

ルールを作成または編集すると、システムはそのルールを「ドラフト」ステータスで保存します。これにより、本番環境のインサイトに影響を与えずにルールを設定およびテストできます。

既存のルールの確認

ルールをクリックすると、ルールレビューページが表示され、次のことができます。

- 設定を確認する: メトリクス接続、しきい値、条件、粒度設定など、ルールの現在の設定を確認します。
- 自然言語で質問する: オンボーディングチームメイトと協力してルールを理解して絞り込みます。次のような質問をします。
 - 「このルールはインサイトをトリガーするタイミングをどのように決定しますか？」
 - 「特定の製品カテゴリのフィルタリングを追加できますか？」
 - エージェントは、ルールロジックを会話的に反復処理し、モニタリング要件を適切な設定に変換するのに役立ちます。
- 個々のルールの影響をプレビューする: ルールプレビューを使用して、現在の設定で実行時にインサイトがどのように生成されるかを確認します。特定の製品とサイトでプレビューをフィルタリングして、ルールがサプライチェーンのさまざまな部分にどのように影響するかを理解します。
 - 画面の下部にある「プレビュー」要素を展開します。
 - 「インサイトのプレビュー」をクリックして、ランタイムインサイトを生成します。
 - 製品やサイト全体で検索条件を使用してプレビューを絞り込みます。
- プレビューで反復する: オンボーディングエージェントと協力してルールを絞り込むときは、プレビューを使用して変更を検証します。プレビュー結果が運用上のニーズと一致するまで反復処理を続け、設定を保存します。

フィールドを直接編集する (オプション): ルールを自分で設定する場合は、「編集」をクリックして、エージェントのサポートなしでフィールドを直接変更します。手動で編集しても、オンボーディングチームメイトに次のような質問をすることができます。

- 「このしきい値フィールドは何を制御しますか？」
- 「これをクラス A 製品に制限できますか？」

オンボーディングチームメイトは、直接編集インターフェイスで作業している場合でも、中間設定サポートを提供します。

ルールのアクティブ化

ルール設定とプレビュー結果に満足したら、次の操作を行います。

1. ルールのステータスをドラフトから準備完了に変更します。
2. 「変更の保存」をクリックしてルールをアクティブ化します。

ルールは、設定されたしきい値と条件に基づいて本番環境でインサイトを生成するようになりました。

全体的なインサイトの確認

メトリクスとルールを設定してアクティブ化したら、すべての設定が組み合わされた影響を確認します。

1. モニタリング設定ページの検出タブに移動し、プレビューパネルを展開します。
2. このグローバルビュープレビューでは、現在のすべての設定で生成されるインサイトの完全なセットが表示され、メトリクスとルールの組み合わせの効果が表示されます。
3. このビューを使用して、モニタリング設定がオペレーションに適したボリュームとインサイトを生成するかどうかを評価します。
4. モニタリングの機密性やカバレッジを調整する必要がある場合は、オンボーディングエージェントと直接連携して調整するか、個々のメトリクスやルールに移動してさらに絞り込みます。

根本原因と推奨事項のガイドライン

ガイドラインは、Amazon Connect Decisions が根本原因分析とインサイトのレコメンデーションを生成する方法を形成するのに役立ちます。これらのガイドラインは、AI が生成した説明と推奨されるアクションがビジネスプラクティスと運用上の制約と一致するようにするポリシーとして機能します。

ガイドラインへのアクセス: Insights 設定ページから、根本原因と推奨事項タブを選択します。

ガイドラインの動作: ガイドラインは、システムの以下の方法に影響を与えるコンテキストと制約を提供します。

- 例外とアラートの根本原因を分析します
- 解決のための実用的なレコメンデーションを生成します
- ビジネスルールに基づいて修復アプローチを優先する
- 運用環境とサプライチェーンの制約にガイダンスを適応させます

オンボーディングチームメイトと連携する: オンボーディングチームメイトを使用して、会話でガイドラインを作成および改善します。次のような質問をします。

- 「プロモーション期間中に高速 SKUs」
- 「45 日を超える在庫の動きの遅い在庫にマークダウンレビューのフラグを付けるためのガイドラインを追加」
- 「最小注文数量がベンダーのリードタイムと一致するようにするガイドラインを作成できますか？」

チームメイトが要件を理解できるように、標準の運用手順またはビジネスポリシーを共有します。チームメイトは入力を分析し、AI チームメイトの行動を形成するガイドラインとガードレールに変換します。

ガイドラインの作成: 新しいガイドラインを作成するには、次のいずれかの操作を行います。

- 自然言語を使用する: オンボーディングチームメイトにガイドラインの作成を依頼します。例: 「過剰在庫に対処する際に、迅速配送よりも在庫削減戦略を優先するガイドラインを作成する」
- 「ガイドラインの作成」 ボタンを使用します。「ガイドラインの追加」をクリックして、パラメータを直接定義します。

ガイドラインの例:

- 「プロモーション期間中に高速 SKUs」
- 「最小注文数量がベンダーリードタイムと一致していることを確認する」
- 「季節的またはプロモーション活動による需要の急増をモニタリングする」
- 「A クラス製品の在庫切れリスクを 24 時間以内に計画マネージャーにエスカレーションする」

ガイドラインの確認と編集: 設定を表示するガイドラインを選択します。オンボーディングチームメイトと協力して、ガイドラインがインサイトにどのように影響するかを理解します。次のような質問をします。

- 「このガイドラインは過剰在庫例外の推奨事項にどのように影響しますか？」
- 「このガイドラインを A クラス製品に固有にできますか？」
- 「このガイドラインを適用する前後の推奨事項の例を表示する」

ガイドラインのアクティブ化: ガイドラインはドラフト/準備完了ステータスモデルで動作します。

1. ドラフトステータスでガイドラインを作成および絞り込み、その影響をテストする
2. ガイドラインが望ましい動作を生成するまで、オンボーディングチームメイトと繰り返します。
3. ステータスを「Ready to apply the guidelines to all future root cause analysis and recommendations」に変更します。
4. 変更を保存をクリックしてアクティブ化する

アクティブなガイドラインは、ユーザーがインサイトを確認するときに、システムが例外を分析し、レコメンデーションを生成する方法に即座に影響します。

優先順位付けと重要度

重要度要因により、財務上の影響に基づいて優先順位付けが可能になり、最も価値の高い運用に影響を与えるインサイトに集中できます。

重要度設定へのアクセス

Insights 設定ページから、優先順位タブに移動します。

重要度要因の動作

重要度要因は、以下を計算することでインサイトをビジネスへの影響に変換します。

- 収益への影響: サプライチェーンの中断による収益の損失またはリスク (在庫切れ、出荷の遅延、需要の未達など)
- コストへの影響: サプライチェーンの非効率性による追加コスト (在庫の超過、配送の迅速化、廃止など)

オンボーディングチームメイトの使用

オンボーディングチームメイトを使用して、重大度要因を会話で設定します。次のような質問をします。

- 「さまざまな製品カテゴリの収益への影響はどのように計算すればよいですか？」
- 「過剰在庫状況にはどのようなコスト要因を含めるべきですか？」
- 「A クラス製品と C クラス製品で収益への影響を重み付けできますか？」

製品の財務データ、コストの前提、または過去の影響分析を共有します。チームメイトは入力进行分析し、ビジネスの優先順位に沿った重要度要因設定を推奨します。

優先順位付けでの財務上の影響の使用

設定すると、重要度要因によってインサイトページのインサイトのフィルタリングとソートが強化されます。システムは、例外タイプに基づいて、インサイトごとに計算された財務上の影響を表示します。

- 在庫切れの例外は収益への影響を示します (推定売上損失)
- 過剰なインベントリ例外は、コストへの影響 (コストの負担と廃止リスク) を示します。
- 供給中断の例外は収益への影響を示します (遅延フルフィルメント)
- 在庫過剰の例外はコストへの影響を示します (追加の倉庫と資本コスト)

財務上の影響をフィルタリングしてソートし、ROI を最大化する修復ロードマップを作成できます。まず、財務上の影響が最も大きいインサイトに焦点を当てます。

例: 在庫切れの例外は、売上損失に基づいて、1 日あたり 50,000 USD の収益への影響を示している場合があります。過剰在庫の例外は、1 日あたり 2,000 USD のコストへの影響が、コストと潜在的なマークダウンエクスポージャーによって示される可能性があります。

Insights の管理

Amazon Connect Decisions が設定したルールに基づいてインサイトを生成すると、day-to-day作業では、ルールの確認、優先順位付け、および対応が重要になります。このセクションのページでは、適切なインサイトの検索からアクションの実行、ループの終了まで、そのプロセスについて説明します。

インサイトの管理の対象

インサイトの使用は自然な進行をたどります。まず、自分の役割に最も関連性の高いインサイトを見つけ、特定の問題の詳細を掘り下げ、システムが提供する推奨事項に基づいて行動し、時間の経過と

ともにシステムの改善に役立つフィードバックを共有します。このセクションの各ページでは、そのワークフローの一部について説明します。

このセクションの内容

インサイトのフィルタリングとソート インサイトページでは、サプライチェーン全体でいつでも数百の問題が発生する可能性があります。このページでは、フィルター、検索、ソートを使用してリストを絞り込む方法について説明します。これにより、自分の役割と責任にとって最も重要なことに集中できます。

インサイトの詳細について 調査するインサイトを特定したら、このページでは、根本原因分析、主要なメトリクス、サポートデータ、関連するインサイト、アクティビティログなど、インサイトの詳細ページに表示される内容について説明します。このページを使用して、対応方法を決定する前に、問題の完全なコンテキストを理解します。

推奨事項に基づいて行動する Amazon Connect Decisions は、各インサイトとともに AI を活用した推奨事項を生成します。このページでは、これらの推奨事項を評価し、推奨されるアクションを実行する方法について説明します。

インサイトに関するフィードバックの提供 フィードバックは、時間の経過とともにシステムを改善するのに役立ちます。このページでは、インサイトの品質とレコメンデーションの精度に関する入力をインサイトの詳細ページから直接共有する方法について説明します。

インサイトのフィルタリングとソート

Amazon Connect Decisions は、サプライチェーンの責任に最も関連性の高いインサイトにすばやく集中するのに役立つ包括的なフィルタリングおよびソート機能を提供します。複数のエントリポイントからインサイトページに移動し、製品階層、サイト階層、インサイトプロパティ、カスタムビジネスセグメントに基づいてフィルターを適用できます。

Insights ページへのアクセス

Insights ページには、いくつかのパスからアクセスできます。

- 左側のナビゲーションメニューから、または上部のナビゲーションバーからインサイトを選択します。
- Insights ページにデフォルトのビュー設定が表示されます。

ホームページから

ホームページでは、ステータスまたは重要度別にインサイト数を表示するステータス概要カードを使用して、インサイトにすばやくアクセスできます。任意のカードを選択して、そのフィルターが事前に適用されたインサイトページに移動します。

ホームページカードから移動すると、インサイトページが開き、関連するフィルターがすでに適用されています。

The screenshot displays the Amazon Connect Decisions Insights interface. On the left is a navigation menu with options like Home, Insights, Configuration, Plans, Data management, Settings, Users, Roles, and Application. The main area shows a table of insights. At the top, there are filters for 'Not started' (9,049), 'In progress' (11), 'Pending resolution' (2), 'Completed' (0), 'Dismissed' (1), 'Archived' (88), and 'Processing' (0). Below this is a search bar and a table of insights. The table columns are: Insight ID, Description, Status, Severity, Assigned to, Impact, Impact date, Created on, and Actions. The first two insights are highlighted with checkboxes. The right sidebar shows a 'Status Breakdown' chart and a 'First 10 Insights' section with a text description of the first insight.

インサイトページのレイアウトについて

Insights ページは、次の 4 つの主要セクションで構成されています。

ステータス概要バー

ページの上部に、ステータスカードにはステータスカテゴリ別のインサイト数が表示されます。

- 未開始: ユーザー操作なしで新しく作成されたインサイト
- 処理: システムによって現在分析または処理されているインサイト
- 進行中: レコメンデーションに対してアクションを開始したインサイト
- 解決保留中: アクションは実行されているが、まだ完全に解決されていないインサイト

- 完了: 解決され、ルールのしきい値を満たさなくなったインサイト
- Dismissed: 破棄することを明示的に選択したインサイト
- アーカイブ済み: アーカイブストレージに移動されたインサイト

各カードのステータス名とカウントは青で表示されます。ステータスカードを選択して、インサイトテーブルをそのステータスにフィルタリングします。

フィルタリングと検索エリア

ステータスバーの下には、フィルタリングコントロールがあります。

保存されたフィルターセット: 左側のドロップダウンを使用すると、事前設定されたフィルターの組み合わせを適用できます。

日付範囲フィルター: 中央では、「日付範囲で作成されたフィルター」に現在選択されている日付範囲 (「2025-01-01 — 2025-12-31」など) が表示されます。選択すると、開始日と終了日を選択できる日付ピッカーが開きます。

検索フィルタープロパティ: 右側の検索バーでは、タスク ID、製品名、サイト名、またはその他のプロパティで特定のインサイトを検索できます。

アクティブなフィルターの表示

フィルタリングコントロールの下に、適用されたフィルターがリムーバブルチップとして表示され、以下が表示されます。

- 列名とフィルター条件 (「重大度 = 高」など)
- 個々のフィルターを削除するための X ボタン
- 一致するインサイト (「279 一致」など) を示す結果数
- フィルター管理オプションのドロップダウンを含む「フィルターをクリア」ボタン

Insights テーブル

メインテーブルには、次の列を含むすべてのインサイトが表示されます。

- インサイト ID: インサイトの詳細を表示するためのクリック可能なリンクとしての一意のタスク ID

- 説明: 検出された問題の概要
- ステータス: アイコンインジケータ付きの現在のワークフロー状態
- 重要度: カラーコーディングを使用した優先度レベル (重大、高、中、低)
- 緊急性: ソート機能を備えた時間的制約のある優先度
- 割り当て先: インサイトを担当するユーザーまたはチーム
- 影響: 計算可能な場合の財務上または運用上の影響
- 影響日: 問題が発生することが予想される場合
- 作成日: システムがインサイトを検出した日時 (日付と時刻を含む)
- 製品: インサイトの影響を受ける製品識別子
- アクション: 各インサイトのクイックアクションを含む 3 つのドットメニュー

インサイトのフィルタリング

Amazon Connect Decisions は、関連するインサイトをすばやく見つけるのに役立つ複数のフィルタリングアプローチをサポートしています。

検索バーの使用

「検索フィルタープロパティ」バーでは、フィルタリングにすばやくアクセスできます。

1. 検索バーを選択する
2. 検索用語の入力を開始する (タスク ID、製品名、サイト名、キーワード)
3. 入力すると、システムはリアルタイムの検索結果を提供します。
4. 適用されたフィルターは、検索エリアの下にチップとして表示されます。

階層フィルタリング (製品とサイト)

製品階層またはサイト階層でフィルタリングする場合、システムは 5 つの階層レベルすべてを同時に検索します。

階層フィルターを適用するには:

1. 検索バーを使用して製品またはサイト名を入力する
2. 階層レベル (レベル 1~レベル 5) でグループ化された一致する結果が表示されます。

3. フィルタリングする階層値を選択する
4. 完全な階層パスを示すフィルターチップが表示されます

システムは、プレフィックスベースのマッチングとマルチワードサポートを使用します。たとえば、「temp」と入力すると、「Temperature Sensors」のプレフィックスと一致するため、「Temperature Sensors」と一致します。

階層レベルを選択すると、その階層内のすべての子項目がフィルターに自動的に含まれます。たとえば、製品レベル 1 で「Electronics」でフィルタリングすると、特定のサブカテゴリや SKU に関係なく、Electronics カテゴリ内の製品に関するすべてのインサイトが表示されます。

インサイトプロパティによるフィルタリング

特定の列でフィルタリングして、正確なフィールド値に基づいてインサイトを見つけることができます。

プロパティフィルターを適用するには:

1. 検索バーまたは列固有のフィルターを使用する
2. フィルター入力は、フィールドタイプに基づいて適応します。
 - テキストフィールド (ステータス、重要度): ドロップダウンに事前定義されたオプションを提供します
 - 数値フィールド (影響): 比較演算子を使用して数値入力を提供します
 - 日付フィールド (作成日、影響日): 日付ピッカーに範囲の選択を提供します
3. フィルター値を選択または入力します。
4. プロパティ名と値 (「ステータス: 未開始」など) を示すフィルターチップが表示されます。

日付範囲フィルタリング

日付範囲フィルターは、インサイト作成日でフィルタリングするための専用インターフェイスを提供します。

日付範囲フィルターを適用するには:

1. 「日付範囲で作成されたフィルター」を選択します。
2. 現在の日付範囲を示す日付ピッカーが表示されます。

3. カレンダーから開始日と終了日を選択します。
4. フィルターが自動的に適用され、日付範囲が表示されます。
5. 結果カウントが更新され、一致するインサイトが表示されます。

セグメンテーションベースのフィルタリング

カスタムビジネスセグメントを設定している場合は、それらを使用して、顧客層、製品ライン、地理的リージョンなどの意味のあるビジネスカテゴリに基づいてインサイトをフィルタリングできます。

セグメントフィルターを適用するには:

1. 検索機能を使用してセグメントタイプを検索する
2. 使用するセグメントタイプ (「顧客層」など) を選択します。
3. セグメント値 (「階層 1」など) を選択します。
4. 「セグメントタイプ: セグメント値」を示すフィルターチップが表示されます。

セグメンテーションのセットアップ

セグメンテーションを使用すると、運用にとって重要なビジネス基準に基づいて製品、サイト、顧客、チャネルをグループ化できます。セグメンテーションフィルタリングを使用するには、まずビジネスグループを定義するセグメンテーションルールテーブルをアップロードする必要があります。

セグメンテーションテーブルロジック:

- 1 行以内 (AND ロジック): 1 行に複数のフィールドに入力する場合、レコードがそのセグメントに属するには、それらのすべてのフィールドが一致している必要があります。
- 複数の行にまたがる (OR ロジック): 同じ segment_type と segment_value を持つ複数の行を作成すると、レコードがそれらの行のいずれかと一致するかどうか認定されます。
- NULL 値 (ワイルドカード): フィールドを空白のままにすると、「任意の値に一致」を意味します

セグメンテーションテーブルは、市、州、国、取引相手、会社、チャネルなどの追加フィールドとともに、製品とサイトの両方で最大 5 つの階層レベルをサポートします。

重要な考慮事項:

- セグメントの更新は、履歴データではなく、将来のインサイトにのみ適用されます。

- segment_type と segment_value はそれぞれ 30 文字以下である必要があります
- 1 つのインサイトを複数のセグメントに属せる
- 数百の個々の IDs

適用されたフィルターの管理

適用されたすべてのフィルターは、検索エリアの下にリムーバブルチップとして表示されます。

1 つのフィルターを削除するには:

1. フィルターチップの X ボタンを選択する
2. システムは、結果をフィルタリングして更新する を削除します。

すべてのフィルターを削除するには:

1. フィルターのクリアを選択する
2. システムはすべてのフィルターチップを削除し、フィルタリングされていないビューを表示します。

Note

アクセスコントロールフィルターの切り替え (プロファイル設定で有効になっている場合) は独立して動作し、「フィルターをクリア」アクションでは削除されません。

保存済みフィルターセットの使用

保存済みフィルターセットを使用すると、頻繁に使用されるフィルターの組み合わせを保存し、今後のセッションですばやく適用できます。

保存されたフィルターセットを適用するには:

1. 保存済みフィルターセットドロップダウンを選択する
2. 適用するフィルターセットを選択する
3. システムは、そのセット内のすべてのフィルターを一度に適用します。
4. フィルターチップがセット内のフィルターごとに表示される

アクセスコントロールフィルターの切り替えの使用

アクセスコントロールフィルターのトグルは、割り当てられたアクセス許可に一致する製品とサイトに表示データを制限します。このトグルは、フィルターチップシステムから独立して動作します。

アクセスコントロールの切り替えを設定するには:

1. 右上隅で名前を選択します。
2. ドロップダウンメニューからプロファイルを選択する
3. 割り当てられたスコープタブに移動します。
4. 割り当てられたスコープでビューのフィルタリングをオンまたはオフに切り替える
5. [保存] を選択します。

トグルが有効になっている場合:

- アクセスコントロールのフィルタリングがアクティブであることを示すビジュアルインジケータが Insights ページに表示されます。
- 割り当てられたスコープに一致する製品とサイトのインサイトのみが表示されます
- このフィルタリングは、手動で適用するフィルターチップに加えて適用されます。

トグルが無効になっている場合:

- 組織全体のすべてのインサイトが表示されます (ロールのアクセス許可による)
- 手動フィルターチップは引き続き正常に適用されます

管理者がすべてのユーザーにアクセス制御フィルタリングを適用するようにシステムを設定している場合、このトグルを無効にすることはできません。

ソートインサイト

Insights テーブルのすべての列はソートをサポートしており、優先度、影響、タイミング別にインサイトを整理するのに役立ちます。

Insights リストをソートするには:

1. Insights テーブルで任意の列ヘッダーを選択する

2. システムはインサイトをその列で昇順にソートします
3. ソート方向を示す矢印が列ヘッダーに表示されます。
4. 同じ列ヘッダーを再度選択して降順に切り替えます

デフォルトのソート順序は重要度 (Critical to Low) です。ソート選択は現在のセッション中も保持され、適用されたフィルターで機能します。

フィルター結果について

結果数は検索領域の下に表示され、現在のフィルターに一致するインサイトの数を示します。

結果カウント形式: 「X 一致」。X は、適用されたすべてのフィルター基準を満たすインサイトの数です。

フィルターが結果を返さない場合:

システムは、「選択したフィルターに関するインサイトが見つかりません。一部のフィルターを削除するか、条件を調整してみてください。」

空の状態には以下が含まれます。

- フィルターをクリアボタン
- 現在適用されているフィルターのリスト
- アクセスコントロールの切り替えがオンになっていて結果が表示されない場合、メッセージには「割り当てられた製品/サイトに利用できるインサイトがない」と表示されます。これが間違っていると思われる場合は、管理者に連絡してください。」

Insights の詳細

Insights の詳細について

インサイトの詳細ページには、根本原因分析、主要なメトリクス、推奨事項、関連するインサイトなど、特定のインサイトに関する包括的な情報が表示されます。このページは、問題を理解し、その影響を評価し、それを解決するための適切なアクションを決定するのに役立ちます。

インサイトの詳細へのアクセス

インサイトに関する詳細情報を表示するには:

- ## ページヘッダーとナビゲーション

パンくずリストナビゲーション: 現在の場所 (ホーム > インサイト > フィルタリングされたインサイト) を表示し、インサイトのリストページに戻ることができます。

ステータスと重要度のインジケータ: 現在のインサイトステータス (「Dismissed」など) と重要度レベル (「Critical」など) を表示します。

最終更新タイムスタンプ: インサイトが最後に変更された日時を示します (例: 「最終更新日: 2025 年 4 月 16 日 03:07 UTC」)。

Insights の詳細 37

38

1. 根本原因分析セクションを見つける
2. 任意のセクションの横にある矢印アイコンを選択して展開します。
3. 展開されたセクションには、以下が表示されます。
 - 寄与要因の詳細な説明
 - 定量的証拠とデータポイント
 - イベントまたは条件のタイムライン
 - 関連するビジネスコンテキスト

一般的な根本原因のカテゴリは次のとおりです。

- 予測在庫減少
- 特定された根本原因 (ソーシングルールの欠落など)
- 評価された利用可能なインベントリ
- 計算された注文数量の要件
- 計算された配信日

関連するデータセクション

関連データセクションには、サポート情報へのリンクがあります。

- データ視覚化: インベントリの傾向、需要パターン、またはその他の関連メトリクスを示すグラフとグラフへのリンク
- 分析リソース: ベンダーのリードタイム分析、インベントリポリシーの制約、またはその他のサポートデータへの参照
- 関連するメトリクス: インサイトを知らせるパフォーマンス指標への接続

根本原因分析をサポートする基盤となるデータをドリルダウンするリンクを選択します。

推奨事項セクション

推奨事項セクションには、インサイトを解決するためのシステム生成の提案が表示されます。

レコメンデーションカード: 各レコメンデーションは、以下を含むカードとして表示されます。

レコメンデーションタイトル: 提案されたアクションの明確な説明 (例:ACDN-M15-RPA-0070」)

推奨事項の詳細: 以下を含む特定のパラメータ。

- 数量と単位
- ロケーション (サイト、ウェアハウス)
- 日付とタイムライン
- 製品またはサプライヤー識別子

タイムスタンプ: レコメンデーションが生成された日時

詳細リンク: 「詳細」を選択すると、理論的根拠や期待される成果を含む完全な推奨事項情報が表示されます。

アクションステータス: レコメンデーションの現在の状態 (「アクションが利用可能」など)

レコメンデーションを展開するには:

1. レコメンデーションタイトルの横にある矢印アイコンを選択します。
2. カードが展開され、以下が表示されます。
 - アクションパラメータを完了する
 - 理論的根拠と分析のサポート
 - 期待される成果と利点
 - 関連するデータと計算

アクティビティログ

アクティビティログセクションは、インサイトに関連するすべてのアクションと更新を追跡します。

ログエントリ構造: 各エントリには以下が含まれます。

- アクションの説明: 発生した内容 (ACDN-M15-RPA-0070および DC-SAN-001 の在庫切れリスク項目」など)
- インサイト ID リファレンス: 関連するインサイトへのリンク
- システム情報: API コールまたは関連するシステムプロセス
- タイムスタンプ: アクションが発生した日時
- 詳細リンク: 追加情報を表示するには を選択します
- 使用可能なアクションボタン: 該当する場合、使用可能な次のステップが表示されます

アクティビティの詳細を表示するには:

1. ページの下部にあるアクティビティログセクションを見つけます。
2. 任意のログエントリで「詳細」を選択して展開します。
3. そのアクティビティに関する詳細情報を確認する

アクティビティログには、エントリが逆の時系列で表示され、最新のアクションが上部に表示されます。

関連するインサイトセクション

ページの下部にある関連インサイトセクションには、現在の問題に関連する他のインサイトが表示されます。

セクションヘッダー: 関連するインサイト (「関連インサイト (6)」など) の数を表示します。

関連するインサイトテーブルには、以下が表示されます。

列

- インサイト ID: クリック可能なリンクとしてのタスク識別子
- 説明: 関連するインサイトの簡単な概要
- ステータス: アイコン付きの現在のワークフロー状態 (「Dismissed」など)
- 製品: 製品識別子
- サイト: サイト識別子

関連するインサイトを表示するには:

1. 関連するインサイトテーブルでインサイト ID を選択します。
2. システムは、そのインサイトの詳細ページに移動します。

関連するインサイトは、現在の問題がより広範なパターンの一部であるか、他のサプライチェーンの課題に関連しているかを理解するのに役立ちます。

ビジュアルインジケータについて

インサイトの詳細ページ全体で、ビジュアル要素は情報をすばやく解釈するのに役立ちます。

ステータスバッジ: 色分けされたインジケータは、現在のインサイト状態を示します。

- Dismissed: 破棄されたインサイトの灰色のインジケータ
- 進行中: アクティブな作業の青いインジケータ
- 未開始: 新しいインサイトのデフォルト状態

重要度インジケータ: 色とアイコンの通信優先度

- 重大: 最高優先度の赤色のインジケータ
- 高: 重大な問題を示すオレンジ色のインジケータ
- 中: 中程度の懸念を示す黄色のインジケータ
- 低: 軽微な問題を示す灰色のインジケータ

展開可能なセクション: 矢印アイコンは折りたたみ可能なセクションと追加の詳細を示します

クリック可能な要素: 青いハイパーリンクは、インサイト IDs や詳細リンクなどのインタラクティブな要素を示します

アクションボタン: 灰色の「使用可能なアクション」ボタンは、レコメンデーションに対してアクションを実行できる場所を示します

Insights の詳細ページのナビゲーション

Insights Details ページから、次のことができます。

Insights のリストに戻る: パンくずリストナビゲーションで「Insights」または「Filtered Insights」を選択します。

関連するインサイトを表示する: 関連するインサイトセクションでインサイト ID を選択して、関連する問題を調査します。

サポートデータへのアクセス: 関連データセクションのリンクを選択して、関連するダッシュボードと分析ビューを開きます。

レコメンデーションに対するアクションの実行: アクションボタンを使用して、レコメンデーションを承諾、破棄、または完了としてマークします (詳細なガイダンスについては、「レコメンデーションに対するアクションの実行」を参照してください)。

ページの更新

インサイトの詳細ページは、次の場合に自動的に更新されます。

- 新しいデータが使用可能になる
- 推奨事項が生成または更新される
- インサイトに対してアクションが実行される
- 関連するインサイトの変更ステータス

ページ上部の「最終更新」タイムスタンプには、最新の更新が発生した日時が表示されます。

レコメンデーションに基づく行動

インサイトの詳細ページでは、サプライチェーンの問題を解決するために設計されたシステム生成の推奨事項を確認して対処できます。このページでは、レコメンデーションを評価し、推奨されるアクションを実行する方法について説明します。Amazon Connect Decisions は、ユーザーに代わって特定のオペレーションを実行するように外部システムとやり取りするように設定できます。有効にすると、Amazon Connect Decisions は Insights を通じて推奨されるアクションを実行することをに提供します (発注書の作成、更新、キャンセルなど)。

Note

Actions 機能を使用する場合、Amazon Connect Decisions が Boomi (boomib.com) を統合ミドルウェアとして使用して、プラットフォームでの承認後の発注書の作成など、ユーザーに代わってアクションを実行するために必要なデータを送信および処理することを許可します。データは Boomi 内に保存されません。

推奨事項について

推奨事項は、インサイトに対処するための AI 生成の提案です。各レコメンデーションには以下が含まれます。

- 特定のアクション: 何をするか (発注書の作成、在庫の移管など)
- パラメータ: 数量、場所、日付、およびその他の詳細
- 根拠: このアクションが推奨される理由

- 期待される成果: このアクションがインサイトを解決する方法

推奨事項は、最も効果的なソリューションに集中できるように、影響、実現可能性、緊急性に基づいて優先順位が付けられます。

推奨事項の確認

アクションを実行する前に、推奨事項の詳細を確認してください。

1. レコメンデーションのタイトルと説明を読む: 提案されているアクションを理解する
2. レコメンデーションカードを展開する: 矢印アイコンを選択して詳細全体を表示します。
3. 理論的根拠を確認する: このアクションが推奨される理由を理解する
4. パラメータを確認する: 数量、場所、日付、その他の詳細を確認する
5. 期待される成果を評価する: このアクションがビジネスニーズに合っているかどうかを評価する

使用可能なアクション

レコメンデーションごとに、いくつかのアクションオプションがあります。

Accept

Accept を選択してレコメンデーションを承認し、提案されたアクションに進みます。

レコメンデーションを受け入れる場合:

- インサイトのステータスが「進行中」に変わります
- レコメンデーションは承諾済みとしてマークされます
- 関連するインサイトは、該当する場合、更新される可能性があります。
- システムは今後の参照のためにアクションを追跡します

レコメンデーションを受け入れるには:

1. レコメンデーションの詳細を確認する
2. 承諾ボタンを選択する
3. プロンプトが表示されたらアクションを確認する
4. システムはインサイトステータスを更新し、実装の追跡を開始します。

破棄

状況に合わない場合は、破棄を選択してレコメンデーションを拒否します。

レコメンデーションを破棄する場合:

- レコメンデーションは破棄済みとしてマークされます
- インサイトは、他の潜在的なアクションに対してアクティブなままです。
- システムは、将来の学習に関する決定を記録します。

レコメンデーションを破棄するには:

1. レコメンデーションの詳細を確認する
2. 破棄ボタンを選択する
3. 必要に応じて、レコメンデーションを破棄する理由に関するフィードバックを提供します。
4. システムはレコメンデーションステータスを更新します。

実行されるアクション

システム外の他の手段で問題に対処した場合のアクションを選択します。

実行されたアクションをマークすると、次のようになります。

- インサイトのステータスが「解決保留中」に変わります。
- システムは、そのアクションが手動で実行されたことを追跡します。
- データが解決を確認すると、インサイトは完了としてマークされます

実行されたアクションをマークするには:

1. 外部システムで必要なアクションを実行する
2. インサイトの詳細ページに戻る
3. 実行されたアクションを選択する
4. システムはインサイトステータスを更新します。

レコメンデーションのライフサイクル

推奨事項は、アクションに基づいてライフサイクルに従います。

未開始

レコメンデーションは生成されましたが、まだ実行されていません

進行中

レコメンデーションを承諾したか、アクションを開始しました

保留中の解決

アクションは実行されましたが、データ内で問題がまだ完全に解決されていません

Completed

システムはデータを通じて、アクションがインサイトを正常に解決したことを確認しました
破棄済み

レコメンデーションを明示的に拒否しました

複数の推奨事項

一部のインサイトには複数のレコメンデーションがある場合があります。

主な推奨事項: 分析に基づくシステムの最上位の提案

代替推奨事項: プライマリレコメンデーションが実行可能でない場合の追加オプション

レコメンデーションを選択するには:

1. 利用可能なすべての推奨事項を確認する
2. 期待される成果と実現可能性を比較する
3. ビジネスニーズと制約に最も適した推奨事項を選択する
4. 選択したレコメンデーションに対してアクションを実行する

インサイトごとに受け入れることができるレコメンデーションは 1 つだけです。レコメンデーションを受け入れると、そのインサイトに対する他のレコメンデーションは使用できなくなります。

グループ化された推奨事項

複数のインサイトが同じ根本原因を共有する場合、システムは推奨事項をグループ化することがあります。

グループ化されたレコメンデーションの利点:

- 1つのアクションで複数のインサイトを解決する
- より効率的な例外管理
- システム上の問題をより明確に把握する

グループ化されたレコメンデーションを表示する場合:

- レコメンデーションには、影響を受けるすべてのインサイトが表示されます。
- グループ化されたレコメンデーションに対してアクションを実行すると、関連するすべてのインサイトに影響します。
- グループ化されたレコメンデーションを受け入れると、関連するすべてのインサイトが「進行中」に移行します。

アクションの進行状況の追跡

レコメンデーションに対してアクションを実行した後:

- アクティビティログのモニタリング: アクティビティログセクションでアクションの更新を確認します。
- 関連するインサイトを確認する: 関連するインサイトも解決されているかどうかを確認する
- インサイトステータスを確認する: ステータスインジケータに現在の進行状況が表示されます。
- データ確認の待機: システムは、解決を示す変更についてデータをモニタリングします。

システムがデータを通じてアクションが成功したことを確認すると、インサイトステータスは自動的に「完了」に更新されます。

ベストプラクティス

行動する前に徹底的に確認する: 推奨事項とその影響を理解していることを確認します。

ビジネス上の制約を考慮する: 推奨されるアクションが運用能力やビジネスルールと一致していることを確認する

重要なインサイトに迅速に対処する: 短期的な影響がある重要なインサイトには、すぐに対応する必要があります

フィードバックを提供する: システムが将来のレコメンデーションを改善するために、親指の上下のアイコンを使用する

結果をモニタリングする: 承認されたレコメンデーションがインサイトを正常に解決するかどうかを追跡する

ドキュメントの決定: アクティビティログを使用して、レコメンデーションを承諾または破棄する理由を追跡する

Insights に関するフィードバックの提供

Amazon Connect Decisions を使用すると、自然言語インターフェイス (NLI) から直接、根本原因分析 (RCA) の結果やインサイト用に生成された推奨事項など、インサイトに関するフィードバックを提供できます。お客様のフィードバックは、Amazon Connect Decisions エージェントが将来の分析とレコメンデーションの精度を学習し、改善するのに役立ちます。フィードバックを提供するには、NLI の自然言語フィードバックと NLI のエージェントの応答に対する親指の上下の評価の 2 つの方法があります。

クイックサムアップ/ダウンでも、詳細な自然言語修正でも、すべてのフィードバックは Amazon Connect Decisions エージェントによって潜在的な学習として評価されます。決定論的、非競合、一般化可能なフィードバックは、Knowledge Store に保存されている実用的な学習にキュレートされます。時間の経過とともに、フィードバックによって RCA の精度、レコメンデーションの関連性が向上し、修正を繰り返す必要性が軽減され、やり取りのたびに Amazon Connect Decisions が徐々にスマートになります。

自然言語フィードバック

Decisions Teammate / NLI に修正または観察を入力するだけで、コンテキスト固有の詳細なフィードバックを提供することもできます。これは、出力が正しくない理由を説明する場合や、エージェントが学習すべき運用上の知識を共有する場合に最適です。

例えば、フランクフルトサイトの電子コネクタの予測在庫切れアラート/インサイトを確認します。根本原因エージェントは、根本原因を需要予測エラーに属性付けします。NLI 経由で応答します。

「根本原因は予測エラーではありません — サプライヤー TP_00001 の契約上の最大注文数量は PO あたり 291 ユニットで、システムは 1,600 ユニットに対して単一の PO を生成しました。サプライヤーはこれを拒否します。PO を 291 ユニット以下の複数の注文に分割します。」

Decisions Teammate は「修正に感謝します。根本原因を更新して、サプライヤーの最大注文数量の制約を反映しました。推奨事項は 6 つの分割 POs (5 x 291 + 1 x 145 ユニット) として再生成されました。このサプライヤー制約は、TP_00001 に関する今後のすべての推奨事項に適用されます。」

サムネイルアップ/サムネイルダウンの評価

NLI に表示されるすべての RCA 検出結果とレコメンデーションには、サムズアップオプションとサムズダウンオプションが含まれています。これらを使用して、エージェントの出力が正確で役に立ったかどうかをすばやく通知します。コメントを追加して、追加のコンテキストを指定できます。

たとえば、Northeast ディストリビューションセンターで靴を実行すると、在庫切れアラート/インサイトが予測されます。RCA エージェントは根本原因を特定します。「サプライヤー TP_00012 の出荷がロングビーチでのポートの輻輳により 8 日間遅延し、次回のボストンマラソンによって需要が 22% 急増しました。」レコメンデーションエージェントは、「6 つの低需要の東南アジアストアから 9 つの高需要の北東部ストアに 1,200 ユニットを再割り当てする」と提案します。

親指をあきらかに「スポットオン」を追加します。ポートの遅延とマラソンの需要の急増がこれを引き起こしています。良いレコメンデーション」

Decisions Teammate / NLI は「確認ありがとうございます。お客様からのフィードバックにより、RCA エージェントの信頼度が高まり、将来の在庫切れ分析のために、ポート中断シグナルをリージョンの需要イベントと関連付けることができます。」

プラン

Amazon Connect の決定による計画

Prism は、継続的な学習ループでチームと協力して作業する AI チームメイトを通じてサプライチェーン計画を変革します。これらの AI チームメイトは、オペレーション全体のパターンを観察し、最も重要なものを検出し、アクションを推奨し、承認された意思決定を実行します。プランナーが退職して新しいチームメンバーが第 1 日目から生産性を上げる場合でも、知識が維持されるように、専門知識を体系化します。

Prism Planning の中核には、相互接続された 3 つのインテリジェンス機能があります。

Demand Intelligence は、Amazon データでトレーニングされた 18 以上の予測ツールと基盤モデルを動的に調整し、コンセンサスプランニングを通じて統計予測、顧客コミットメント、部門間の入力を調整しながら、限られた履歴でも 1 日目から正確な予測を生成します。

Supply Intelligence は、将来を見据えた供給計画を生成し、例外を影響別にランク付けされた戦略的意思決定にインテリジェントにクラスター化し、ネットワーク全体で制約対応計画の最適化モデルを実行します。

アダプティブインテリジェンスは、すべての計画と決定から継続的に学習し、運用を 24 時間 365 日モニタリングし、重要な事項を明らかにし、既存のシステム内で承認済みの決定を直接実行して、計画サイクルを数週間から数時間に短縮します。

Demand Planning

計画は、定義された期間に対して作成され、ローリングタイムウィンドウ (計画サイクル) を通じて定期的に更新されます。各需要計画には、計画サイクル内に複数のバージョンを含めることができ、計画サイクル内に受信した増分データの計画の改良をサポートします。

前提条件

で最初の需要計画を作成する前に、次の前提条件が設定されていることを確認してください。

- Amazon Connect Decisions インスタンスをセットアップして設定する必要があります。
- ユーザーアカウントには Manager ロールを割り当てる必要があります。
- 製品または製品サイトのデータエンティティは、準備してアップロードする必要があります (詳細については、「データエンティティ」を参照)。

Demand Intelligence とは

Amazon Connect Decisions の Demand Intelligence は、AI/ML を活用した自動化された正確な予測をお客様に提供します。Demand Intelligence を使用すると、ベースライン予測の精度を向上させ、コンセンサスプランニングを自動化し、例外をプロアクティブに検出および管理し、プランナーの生産性を向上させ、最も重要なのは、過剰な在庫と在庫不足のシナリオを減らすことができます。

データエンティティ

次の表に、Demand Planning で使用されるデータエンティティと列を示します。

表の読み方:

- 必須 – このデータエンティティの列は、障害なしで需要予測を実行するために必須です。
- 条件付きで必須 – このデータエンティティの列は、需要計画設定で設定された設定に応じて必要です。
- 予測品質に推奨 – このデータエンティティの列は、予測の品質に必要です。
- オプション – 列名は省略可能です。機能の出力を向上するには、列名と値を追加することをお勧めします。

outbound_order_line (必須)

このデータエンティティはどのように使用されますか? Demand Planning は、このデータを予測の過去の需要の主なソースとして使用します。さらに、粒度として選択されたフィールドはトレーニング用に送信され、需要計画を確認するためのフィルターとして使用できます。

outbound_order_line 列

列	列は必須ですか?	この列は予測でどのように使用されますか?
id	必須	id、cust_order_id、product_id は、データエンティティ内のレコードを一意に識別するために使用されます。この組み合わせは常に一意である必要があります。列の値にアスタリスクや二重引用符などの無効な文字が含まれていないことを確認します。
cust_order_id	必須	
product_id	必須	

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
order_date	必須	予測の作成に必要です。時系列予測の期間を識別します。
final_quantity_requested	必須	予測の作成に必要です。時系列予測に使用される数量を識別します。この列には null 値を含めず、数値にする必要があります。値にカンマがないことを確認します。たとえば、500000.00 は Demand Planning で受け入れられる値です。
ship_from_site_id	条件付きで必要	この列は、予測ディメンション (サイト階層) に列が選択されている場合、予測の作成に条件付きで必要です。この列には値が必要で、データのフィルタリングと分析に使用されます。
ship_to_site_id	条件付きで必要	
channel_id	条件付きで必要	この列は、予測ディメンション (チャネル階層) に列が選択されている場合、予測の作成に条件付きで必要です。この列には値が必要で、データのフィルタリングと分析に使用されます。
customer_tpartner_id	条件付きで必要	この列は、予測ディメンション (顧客階層) に列が選択されている場合、予測の作成に条件付きで必要です。この列には値が必要で、データのフィルタリングと分析に使用されます。
ship_to_site_address_city	条件付きで必要	この列は、予測ディメンション (サイト階層) に列が選択されている場合、予測の作成に条件付きで必要です。この列には値が必要で、データのフィルタリングと分析に使用されます。
ship_to_site_address_state	条件付きで必要	

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
ship_to_site_address_country	条件付きで必要	
ステータス	予測品質に推奨	この列は、予測品質のために推奨されます。キャンセルされたステータスの注文は、予測入力とは見なされません。

製品 (必須)

このデータエンティティはどのように使用されますか？

Demand Planning は、製品属性を使用して、需要計画のレビューとモデルトレーニングのための階層フィルターを確立します。

製品列

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
id	必須	Supply Chain Data Lake (SCDL) へのデータ取り込みに必要です。列の値に重複IDs や、アスタリスや二重引用符などの特殊文字が含まれていないことを確認します。
説明	必須	Supply Chain Data Lake (SCDL) へのデータ取り込みに必要です。この列には、アスタリス、ハイフン、引用符、二重引用符などの特殊文字を含めることができます。
parent_product_id	条件付きで必要	この列は、予測ディメンション (製品階層) で列が選択されている場合、予測の作成に条件付きで必要です。列に値があり、データとモデルトレーニングのフィルタリングと分析に使用されることを確認します。
product_group_id	条件付きで必要	
product_type	条件付きで必要	
brand_name	条件付きで必要	

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
color	条件付きで必要	
display_desc	条件付きで必要	
product_available_day	予測品質に推奨	推奨。この列の値は、予測モデルが新製品の導入のタイミングを考慮できるようにすることで、予測品質を向上させます。
discontinue_day	予測品質に推奨	推奨。この列の値は、予測モデルが製品廃止のタイミングを考慮できるようにすることで、予測品質を向上させます。
base_uom	予測品質に推奨	製品の測定単位 デフォルトは Eaches。
is_deleted	予測品質に推奨	推奨。製品 ID を予測から除外する場合は、Y と入力します。
pkg_height	予測品質に推奨	推奨。予測モデルが理解できる製品の物理的特性。
pkg_length	予測品質に推奨	
pkg_width	予測品質に推奨	
shipping_dimension	予測品質に推奨	
casepack_size	予測品質に推奨	

product_alternate (予測品質に推奨)

このデータエンティティはどのように使用されますか？

Demand Planning は、製品の前身 (複数可) または代替 (複数可) のデータを使用して、新製品の予測を作成します。データが product_alternate データエンティティに取り込まれると、予測での製品系列サポートが有効になります。product_alternate データエンティティへのデータの取り込みをスキップしても、予想は引き続き生成できます。

product_alternate 列

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
alternate_product_id	必須	Supply Chain Data Lake (SCDL) へのデータ取り込みに必要です。一意のレコード識別子。
product_id	必須	Supply Chain Data Lake (SCDL) へのデータ取り込みに必要です。新製品または製品の新しいバージョンの ID。product_id が製品データエンティティに入力されていることを確認します。
product_alternate_id	必須	SCDL へのデータ取り込みに必要です。類似製品または以前のバージョンの製品の識別子。複数の類似製品を単一の product_id と見なすには、製品を別々の行に入力します。product_alternate_id が製品データエンティティに入力されていることを確認します。
alternate_type	必須	製品の継承または系統を適用するために必要です。すべての行で静的値 similar_demand_product を使用します。
alternate_product_qty	必須	製品の継承または系統を適用するために必要です。product_id の予測に使用する alternate_product_id の履歴の割合を入力します。例えば、60% の場合は 60 と入力する。単一の product_id に複数の alternate_product_id を指定する場合、の合計が 100 となる必要はありません。
alternate_product_qty_uom	必須	製品の継承または系統を適用するために必要です。特定の静的値「パーセント」を使用します。
eff_start_date	必須	SCDL へのデータ取り込みに必要です。開始時間枠を入力して、類似製品の履歴を考慮します。この日付が eff_end_date 以前であることを確認するか、このフィールドを空のままにすると、Demand Planning は年を 1000 で自動入力します。

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
eff_end_date	必須	SCDL へのデータ取り込みに必要です。類似製品の履歴で考慮する終了時間枠を入力します。この日付が eff_start_date 以降であることを確認します。
ステータス	予測品質に推奨	推奨。Inactive と入力して、製品のスーパーセッションまたはシステムマッピングを無視します。

supplementary_time_series (予測品質に推奨)

このデータエンティティはどのように使用されますか？ Demand Planning は、このデータをプロモーションイベント、割引、祝日などの偶発的要因にタグ付けするための主要なソースとして使用します。

supplementary_time_series 列

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
id	必須	Supply Chain Data Lake (SCDL) へのデータ取り込みに必要です。一意のレコード識別子。
order_date	必須	Supply Chain Data Lake (SCDL) へのデータ取り込みに必要です。時系列が記録されたタイムスタンプ。
time_series_name	必須	Supply Chain Data Lake (SCDL) へのデータ取り込みに必要です。特定のタイプの時系列の名前。time_series_name 列は文字で始まり、2~56 文字の長さで、文字、数字、アンダースコアを含めることができます。他の特殊文字は使用できません。
time_series_value	必須	SCDL へのデータ取り込みに必要です。特定の時系列に対応する値。Demand Planning は数値入力のみをサポートし、カテゴリ値を持つ時系列は考慮されません。
product_id	オプションです。	推奨。特定の製品の一意の識別子。需要ドライバーが製品レベルで利用可能な場合は、この列を使用します。

列	列は必須ですか？	この列は予測でどのように使用されますか？
site_id	オプションです。	推奨。特定のサイトまたは場所の一意の識別子。需要ドライバーがサイトレベルで利用可能な場合は、この列を使用します。この列は、最低レベルのサイト階層設定に基づいて ship_from_site_id または ship_to_site_id のいずれかを表すことができます。
channel_id	オプションです。	推奨。特定のチャネルの一意の識別子。需要ドライバーがチャネルレベルで利用可能な場合は、この列を使用します。
customer_tpartner_id	オプションです。	推奨。特定の顧客の一意の識別子。需要ドライバーが顧客レベルで利用可能な場合は、この列を使用します。

履歴と将来の補足時系列: 予測の共変量を理解する

需要を正確に予測するには、過去の販売パターンだけでなく、需要の変化を促進する外部要因を理解する必要があります。共変量とも呼ばれる補足時系列 (STS) データは、プロモーション、料金、祝日、在庫レベルなどの需要要因をキャプチャし、予測モデルが説明可能なパターンをランダムノイズと区別し、将来のビジネスアクションが需要にどのように影響するかを予測できるようにします。ただし、履歴的にのみ既知の共変量 (過去の在庫レベルや競合会社のアクションなど) と事前に既知の共変量 (計画されたプロモーションや予定された祝日など) には重要な違いがあり、この違いを理解することは、積極的な計画の決定をサポートする正確な予測を構築する上で不可欠です。

需要予測の重要な違いは、過去の共変量と既知の共変量 (将来の共変量とも呼ばれます) の区別です。この違いを理解することは、正確な予測モデルを構築する上で不可欠です。

過去の共変量 (履歴 STS データ)

過去の共変量は、過去の期間でのみ知られている補足的な時系列値です。これらの変数は、過去の需要とともに観察されますが、将来の期間に事前に予測または把握することはできません。

過去の共変量の例:

- 在庫の過去の可用性: 過去の在庫レベルはわかっていますが、将来の可用性は需要、補充、その他の不確実な要因によって異なります。
- 実際の競合相手の料金: 過去の競合相手の料金データは観測可能ですが、将来の競合相手のアクションは不明です。

- 気象条件: 過去の天気は記録されますが、将来の天気 (短期予測を超える) は不確実です
- ウェブサイトトラフィック: 過去のトラフィックパターンはわかっていますが、将来のトラフィックは多くの予測不可能な要因に依存します。

予測モデルで を使用する: 過去の共変量は、モデルが過去の関係とパターンを学習するのに役立ちます。例えば、高い在庫の可用性が (製品の可視性やフルフィルメント速度の向上により) 高い売上と関連していた場合、モデルはこの関係を学習します。ただし、これらの値は将来の期間について不明であるため、モデルはそれらの値なしで予測するか、将来の値について仮定する必要があります。

既知の共変量 (将来の STS データ)

既知の共変量は、既知の、または将来の期間に事前に決定できる補足的な時系列値です。これらは将来の状態に関する具体的な情報を提供するため、予測にとって最も貴重な入力です。

既知の共変量の例:

- 計画されたプロモーション割引: マーケティングチームが将来の日付に特定の割引レベルでプロモーションキャンペーンを既にスケジュールしている
- 料金インデックスの変更: 計画された料金調整は、料金戦略に基づいて事前に決定されます。
- 祝祭日インジケータ: カレンダーベースのイベント (祝日、ショッピングシーズン、会計期間) は、数年前から知られています。
- 計画されたマーケティング支出: 予算配分とキャンペーンスケジュールが事前に決定されている
- ストアのオープン/クローズイベント: 拡張プランまたは統合プランが事前にわかっている

予測モデルで を使用する: 既知の共変量は、モデルに仮定ではなく実際の将来の条件を組み込むことができるため、予測精度を大幅に向上させます。たとえば、来月に 25% の割引プロモーションが予定されていることがわかっている場合、モデルは過去の割引対応パターンに基づいて予想される需要の増加を予測できます。

実践的な実装戦略

履歴期間 (トレーニングデータ): 補足時系列データに過去の共変量と既知の共変量の両方を含めます。これにより、モデルは利用可能なすべての需要要因から関係を学習できます。データセットには、現在の日付までのすべての時系列タイプの実際の観測値が含まれている必要があります。

将来の期間 (予測ホライズン): 補足時系列データには既知の共変量のみを含めます。これらは、将来の日付に自信を持って指定できる需要要因です。例えば、次のようになります。

```
id,order_date,time_series_name,time_series_value,product_id,site_id,channel_id,customer_tpartne
1001,2025-02-01,discount_percentage,20.0,PROD_001,SITE_NYC,CHANNEL_ONLINE,CUST_12345
1002,2025-02-14,discount_percentage,30.0,PROD_001,SITE_NYC,CHANNEL_ONLINE,CUST_12345
1003,2025-02-01,holiday_indicator,0,PROD_001,SITE_NYC,CHANNEL_ONLINE,CUST_12345
1004,2025-02-14,holiday_indicator,1,PROD_001,SITE_NYC,CHANNEL_ONLINE,CUST_12345
```

この将来のデータは、2 月 1 日に 20% の割引が予定され、2 月 14 日に 30% のバレンタインデープロモーションが予定されていることをモデルに伝えます。

実用的なアプリケーション

- プロモーション計画: 時間の経過とともに割引率を追跡し、プロモーションの強度が需要にどのように影響するかを理解します。これにより、最適な割引レベルを特定し、将来のプロモーションからの需要の増加を予測することができます。
- Price Elasticity Analysis: 価格インデックスの動きをモニタリングして、価格の変化がさまざまな製品、場所、チャネルにわたる顧客の購入行動にどのように影響するかを定量化します。
- インベントリ制約モデリング: 在庫の可用性レベルをキャプチャして、在庫切れや在庫不足による制約のある売上を特定することで、予測が真の需要シグナルではなく供給制限を考慮できるようにします。

Demand Planning の利点

補足的な時系列データを組み込むことで、Demand Planning システムは以下を行うことができます。

- 予測精度の向上: 原因不明の差異として扱うのではなく、既知の需要要因を考慮する
- シナリオ計画を有効にする: 需要要因の将来の値を調整して「What if」シナリオをモデル化する
- 因果関係を特定する: さまざまな製品や市場の需要に最も大きな影響を与える要因を理解する
- 戦略的意思決定のサポート: 料金、プロモーション、在庫戦略に関するデータ駆動型のインサイトを提供します。

需要計画の作成と設定

需要計画を作成するには:

1. Connect Decisions の Plans AWS セクションに移動し、Create Plans を選択します。計画を作成すると、ビジネスニーズの変化を反映したり、新しい情報を組み込んだりするために、いつでも柔軟に計画を編集できます。

2. タイムホライズン設定を構成する:

- タイムバケット: 計画のニーズに基づいて、日次、週次、または月次を選択します。
- 計画期間: 予測期間を指定します。
 - 毎日: 1 ~ 28 日間
 - 毎週: 1 ~ 26 週間
 - 毎月: 1 ~ 12 か月
- 予測開始日: 週次プランの場合は月曜日、月別プランの場合は月の 1 日である必要があります。非準拠の日付が選択されている場合、システムは同じタイムバケットの開始に自動的に調整されます。週次プランの場合、日付は同じ週の月曜日にシフトされます。月額プランの場合、日付は翌月の 1 日にシフトされます。

3. 計画穀物を選択します。

予測の詳細レベルを選択します。

- 製品: すべてのロケーションにおける製品別の予測
- サイト: すべての製品のロケーション別の予測
- 出荷元サイト ID: 特定の配送場所別の予測
- なし: 製品レベルでのみプランを設定します

4. 予測リードタイムの設定:

このパラメータは、精度計算を予測する入力を決定します。予測リードタイムは、予測が実際の需要と比較される期間の数です。

5. コンセンサスプランルールを設定する (オプション):

コンセンサスルールは、複数の予測入力を統合予測に結合します。さまざまな予測タイプを組み合わせる方法を指定するルールを作成できます。

ルールの例:

- 「製品カテゴリ = 自動車の場合、販売予測、マーケティング予測、顧客予測、ベースライン予測の平均を使用します」
- 「顧客予測がゼロの場合、その項目の予測はゼロである必要があります」

コンセンサスルールの要件:

- 参照されるデータは、すべての予測タイプの AWS Connect Decisions Data Lake (エンティティ名 = Forecast) に存在する必要があります。たとえば、ルールを「売上予測とベースライン予測の最大数を使用」として指定すると、「売上予測」と「ベースライン予測」の両方が、それぞれの plan_type 値 (plan_type = 「売上予測」と plan_type = 「ベースライン予測」) を持つ SCDL Forecast エンティティに存在する必要があります。
- ルールは、実行する必要がある順序で配置する必要があります。
- 予測データ形式は、プラン設定の詳細度と一致する必要があります。

計画の確認と分析

需要計画を確認するには:

1. AWS Connect Decisions ホームページから Plans に移動します。
2. 使用可能なオプションからアクティブなプランを選択します。
3. システムには、製品とサイト全体で集計された予測の概要が表示されます。
4. フィルタリングオプションを使用して、特定の製品、場所、または期間に焦点を当てます。
5. さまざまな予測タイプを確認します。
 - ベースライン予測: 履歴パターンに基づく AI 生成予測
 - コンセンサス計画: 複数の入力を組み込んだ複合予測 (設定されている場合)
 - 予測入力: 販売、顧客、マーケティングからの個々の入力

分位数の選択について

システムは統計分位数を使用して予測の不確実性を表します。

- コンセンサスルールのない計画: システムは、計画粒度に基づいて最適な分位数を自動的に選択します。
- コンセンサスプラン: システムはすべての製品をデフォルトで P50 分位数に設定します。

製品または製品サイトにどの分位数が使用されているかを確認するには、最も低い粒度レベルビューにフィルタリングして最適な分位数を特定します。

予測の編集

ビジネス知識と市場インサイトに基づいて予測を調整できます。

予測を編集するには:

1. Plans でチャットパネルを開きます。
2. 以下を明確に示して調整を指定します。
 - 調整する期間
 - 影響を受ける製品とサイト
 - 新しい予測値 (絶対数またはパーセンテージの変化)
 - 調整の理由

例: 「計画された昇格のため、2026 年 1 月にサイト B の製品 A の予測を 15% 増やします。」

ステータスバナーをモニタリングします。

- 青いバナー: システムは変更を処理しています。この間、パブリッシュボタンは無効になっています。
- 緑のバナー: 変更が正常に適用されました。更新された予測は水色で強調表示されます。

フィードバックの提供:

また、フィードバックを提供して将来の予測を改善することもできます。

- システムが欠落データを処理する方法に関する提案
- ビジネスにとって最も重要な精度メトリクス
- 新しいコンセンサスルールまたは既存のルールの調整に関する推奨事項

同時計画の編集

複数のプランナーが同じ計画に同時に取り組むことができるため、競合を避けるために調整が不可欠です。

- 各プランナーが特定の製品セグメントを担当するチームプロトコルを確立します。
- 青い「Plan is being update」バナーに注意してください。これは、プランナーが変更を加えるとすべてのユーザーに表示されます。

- 緑の「予測が更新される」バナーを待ってから、独自の編集を開始します。
- 競合を避けるために、チームと編集スケジュールを調整します。
- プランナーが共有チャネルの大幅な変更を発表するチームコミュニケーションプラクティスを確立します。

予測パフォーマンスのモニタリング

Amazon Connect Decisions は、5 つの標準統計メトリクスを追跡して、プラン設定でユーザーが指定した予測リードタイムの予測精度を測定します。

- MAPE (平均絶対パーセント誤差): $(1/n) \times \sum |Actual - Forecast| / |Actual| \times 100\%$
 - すべての予測の平均エラー率を測定します。

Note

Forecast は、実際の需要期間が発生する前に指定した予測リードタイムで生成された予測を参照します。計画設定に基づいて、システムは事前に特定の数のタイムバケットを作成した予測を実際の需要と比較することで精度を測定します。たとえば、タイムバケットが週で予測リードタイムが 3 週間の場合、精度式 (MAPE、WAPE、RMSE、バイアス、MAE) の「予測」値は、各需要期間の 3 週間前に作成された予測を参照します。

- WAPE (重み付き絶対パーセント誤差): $\sum |Actual - Forecast| / \sum |Actual| \times 100\%$
 - 大量の製品により多くの重みを与えます。
- RMSE (二乗平均平方根誤差): $\sqrt{[(1/n) \times \sum (Actual - 予測)^2]}$
 - より大きな予測エラーを強調します。
- バイアス (予測バイアス): $\sum (予測 - 実際) / \sum |実際| \times 100\%$
 - 予測が体系的に過大予測か過小予測かを示します。
- MAE (平均絶対誤差): $(1/n) \times \sum |Actual - Forecast|$
 - 需要と同じ単位で平均エラーを提供します。

需要計画の発行

プランナーが予測を確認して改良したら、最終計画を公開してダウンストリームプロセスで利用できるようにします。

需要計画を公開するには:

1. 全体的なパフォーマンスメトリクスを確認して、予測品質が標準を満たしていることを確認します。
2. 計画チームと調整して、必要な調整がすべて完了していることを確認します。
3. Publish Plan をクリックしてリクエストを処理します。
4. システムは、公開されたプランを設定済みの Amazon S3 フォルダに自動的に保存します。

次の計画サイクルの需要計画を再実行する

プランが公開されたら、プランを再実行して、up-to-date過去の需要データと追加の入力更新を使用する新しい予測を生成できます。

需要計画を再実行するには:

1. 「計画」セクションのアクティブな需要計画に移動します。
2. プランの再実行を選択します。
3. 予測開始日フィールドが自動的にクリアされた状態で、計画設定ページにリダイレクトされます。
4. 必要に応じて設定を確認して変更します。
 - 新しい予測開始日を手動で選択します。
 - 必要に応じて、時間範囲の設定を調整します。
 - 必要に応じて、計画の粒度または予測のリードタイムを更新します。
 - コンセンサスプランルールを変更します (該当する場合)。
5. 計画の確認と生成を選択して、予測の生成をトリガーします。

予測を理解する

AWS Connect Decisions は、システムが特定の予測を生成した理由を理解するのに役立つ予測の説明可能性を提供します。

予測が生成された理由を理解するには:

1. Plans でチャットインターフェイス (右パネル) に移動します。これは AI を活用した Demand Planning チームメイトであり、ベースライン予測がどのように計算され、どのような要因がそれに影響を与えたかを説明できます。これを使用して予測を編集したり、フィードバックを提供して将来の予測を改善したりすることもできます。
2. 「なぜこの最終予測 X なのか」という特定の質問をします。
3. 質問に次の情報を含めます。
 - 製品名
 - サイト名 (該当する場合)
 - 時間範囲

システムは予測を分析し、主な影響要因について説明します。

- 過去の傾向とパターン
- 季節性効果
- パターンの変更と異常
- 製品ライフサイクルステージ

この説明を使用して、ビジネス知識に基づいて予測が理にかなっているかどうかを検証します。

Demand Planning Teammate のその他の機能

Plans のチャットインターフェイス (右側のパネル) にある Demand Planning Teammate は、基本的な予測の説明と編集を超えています。高度な分析機能を提供し、需要パターンの理解、問題の特定、データ駆動型的意思決定に役立ちます。

セールス別の上位製品の取得

- Demand Planning チームメイトに、最もパフォーマンスの高い製品を特定するように依頼できます。
- クエリの例: "Show me the top 10 products by sales volume for Q4 2025"
- チームメイトは、過去の売上データを分析し、売上実績でランク付けされた製品を提示します。これにより、計画作業を最も重要なアイテムに集中させることができます。

重要な SKUs 全体の予測精度の分析

- チームメイトは、キー製品の詳細な予測精度分析を実行できます。
- クエリの例: 「過去 3 か月間の上位 20 個の SKUs」
- システムは、複数の精度メトリクス (MAPE、WAPE、RMSE、バイアス、MAE) を評価し、信頼性の高い予測と注意が必要な製品に関するインサイトを提供します。

予測を改善するための推奨される次のステップ

チームメイトが予測品質の問題を特定すると、コンテキストデータの追加など、特定のアクションを推奨できます。

- 予測に高いエラーが表示される場合、チームメイトは以下を推奨する場合があります。
 - 補足時系列データ: プロモーションカレンダー、料金変更、祝祭日指標を追加する
 - 製品ライフサイクル情報: 製品の発売日または中止日を含める
 - 需要要因: マーケティング支出、在庫の可用性、または競合行為を組み込む
- クエリの例: 「製品 ABC の予測に高いエラーがあります。改善するには、どのようなコンテキストデータを追加する必要がありますか？」

複数の製品にわたるパターン分析

- Demand Planning Teammate は、複数の製品に影響を与える体系的な問題を特定できます。
- クエリの例: 「冬のアパレルカテゴリ全体で予測エラーを引き起こす一般的なパターンはありますか？」
- チームメイトは、製品グループ全体の予測パフォーマンスを分析し、以下を特定します。
 - モデルが欠落している可能性がある季節パターン
 - 複数の製品に影響を与える一般的な需要要因
 - 系統的バイアス (過大予測または過小予測の傾向)
 - 特定の製品カテゴリに影響を与えるデータ品質の問題

予測シナリオの視覚化の作成

- チームメイトはグラフとグラフを生成して、潜在的な予測シナリオを視覚化できます。
 - ベースライン予測と調整予測: AI 生成予測と提案された変更を比較します。

- 過去の実績と予測: 過去の予測精度を視覚化して信頼を構築する
- What-If シナリオ: さまざまな仮定 (プロモーション、価格変更、在庫レベル) が将来の需要にどのように影響するかを示す
- クエリの例: 「2026 年 3 月の 20% のプロモーション割引で製品 GHI の予測がどのようなようになるかを示すグラフを作成する」
- チームメイトは、以下に役立つビジュアライゼーションを生成します。
 - 予測の前提をステークホルダーに伝える
 - ビジネス上の意思決定がオンデマンドに与える影響を評価する
 - 複数の計画シナリオ side-by-side
 - 傾向と異常をより簡単に特定する

フィードバックによる継続的な改善

- チームメイトが将来の予測を改善するのに役立つフィードバックを提供できます。
- フィードバックの例:
 - 「モデルはファストファッション製品の最近の傾向をより重視する必要があります」
 - 「休日の季節性パターンが変更されました。それに応じて調整してください」
 - 「在庫が少ない場合、過去の売上は実際の需要を過小評価しています」
- チームメイトはこのフィードバックを使用してレコメンデーションを絞り込み、時間の経過とともににより正確な予測を構築するのに役立ちます。

供給計画

Amazon Connect Decisions は、需要予測を実行可能で実用的な生産および調達スケジュールに変換する制約ベースの供給計画を生成します。供給計画は、マテリアルの可用性、リードタイム、生産能力、倉庫スペースの制限などの実際の運用上の制約を尊重し、自信を持って計画から実行に移行できるようにします。

このセクションの内容

以下のページでは、Amazon Connect Decisions の供給計画ワークフロー全体について説明します。

- 新しい計画の作成: 新しい供給計画を開始し、製品とサイト全体でその範囲を定義し、計画実行を開始します。

- 計画パラメータの設定: 計画期間、タイムバケットなど、Amazon Connect Decisions が供給計画を生成する方法を形成するパラメータを設定します。
- 計画の確認と編集: 生成された計画出力を調べ、ビジネスコンテキストで絞り込む必要があるターゲットを絞った調整を行う
- 供給計画の公開: ダウンストリーム実行のために承認された供給計画を確定して公開する

新しいプランの作成

供給計画を作成するには:

1. AWS 「Connect Decisions」の「Plans」セクションに移動し、「Create Plans in Supply Plans」セクションを選択します。供給計画を作成すると、ビジネスニーズの変化を反映したり、新しい情報を組み込んだりするために、いつでも柔軟に供給計画を編集できます。
2. タイムホライズン設定を構成する:
 - タイムバケット: 計画のニーズに基づいて日次または週次を選択します。
 - 計画期間: 予測期間を指定します。
 - 毎日: 1 ~ 365 日
 - 毎週: 1 ~ 52 週間
 - 計画開始日: 週次計画の場合、計画開始日として曜日を選択できます。また、週の始まりも示します。
3. 計画スケジュール
 - 1 回限りの実行と定期的なスケジュールのいずれかを選択する
 - 定期的なスケジュールで、スケジュールの頻度を選択します。
 - 毎日: UTC スケジュール時間を入力します
 - 毎週: 曜日を選択し、UTC スケジュール時間を入力します
 - 毎月: 日付を選択し、UTC スケジュール時間を入力します。

4. 需要ネッティング:

供給計画の生成を促進する需要を設定します。予測、販売注文、またはその両方を選択する

- 予測: 予測需要
- 販売注文: 実際の販売注文の需要

5. デマンドタイムフェンス:

供給計画が予測された需要を無視する期間。

6. 予測消費ウィンドウ:

実際の顧客注文が予測需要を置き換えるか消費する期間。

- 予測消費ウィンドウ - 転送日数
- 予測消費ウィンドウ - 遡及日数

7. 需要の履歴期間

過去の需要の平均計算で考慮する過去の日数

8. 期限を過ぎた供給日数

供給注文の期限を過ぎても、供給と見なされる日数。

9. タイムフェンスの計画

供給計画が凍結される期間。計画タイムフェンスを使用して新しい計画注文は作成されません。

10 設定ルール

ビジネス目標に沿った計画の作成をシステムに指示する制約ルール。本番キャパシティ制約テンプレートまたはウェアハウススペース制限テンプレートを使用してルールを追加します。

- Production Capacity Constraints: Production Capacity Constraints テンプレートの csv ファイル (圧縮) をダウンロードします。Decision チームメイトを使用してデータを入力し、3 つの csv ファイル (圧縮されていない) をアップロードします。
- ウェアハウススペース制限: ウェアハウススペース制限テンプレート csv ファイルをダウンロードします。決定チームメイトを使用してデータを入力し、再度アップロードします。

11.供給計画の生成

上部の「供給計画の生成」ボタンを選択して、計画生成ジョブを開始するか、スケジュールされた計画の実行を待ちます。

プランパラメータの設定

既存の供給計画を設定する

計画設定ページに移動するには、計画リストから計画ハブまたはアクションメニューの上部にあるミートボールメニューから設定を選択します。プラン設定の変更を手動で更新するか、Decision Teammate とチャットして変更を行うことができます。

プランの確認と編集

供給計画を確認するには:

1. AWS Supply Chain ホームページから計画に移動します。
2. 計画名をクリックするか、アクションリストから計画のレビューを選択します。
3. システムには、製品とサイト全体で集約された供給計画の概要が表示されます。
4. フィルタリングオプションを使用して、特定の製品、場所、または期間に焦点を当てます。

供給計画の詳細を確認する

- 需要セクション
 - 合計需要: 現在のタイムバケットの合計需要
 - 元の予測: 予測消費なしの元の需要予測
 - 正味予測: 予測消費後の残りの予測
 - 販売注文: 受理する必要がある未処理の販売注文
 - Open Transfer Order Demand: Open Transfer Order からの需要
 - Open Production Order Demand: Open Production Order からの需要
 - 計画転送注文の需要: 計画転送注文からの需要
 - 計画された生産注文の需要: 計画された生産注文からの需要
- 供給セクション
 - 合計供給量: 現在のタイムバケットの合計供給量
 - 手元在庫: 手元在庫
 - オープン発注書: オープン発注書の供給
 - Open Transfer Orders: Open または InTransit のいずれかの既存の転送注文
 - Open Production Orders: Open production order supply
 - 計画発注書: システムによって生成された計画発注書
 - 計画転送注文: システムによって生成された計画転送注文
 - 計画された生産注文: システムによって生成された計画された生産注文
- 予測インベントリセクション
 - 予測インベントリ: 予測終了インベントリバランス
 - ~~最小インベントリレベル: インベントリポリシーに基づいて計算された最小インベントリレベル~~

- ターゲットインベントリレベル: インベントリポリシーに基づいて計算されたターゲットインベントリレベル
- 最大インベントリレベル: インベントリポリシーに基づいて計算された最大インベントリレベル
- 安全在庫: インベントリポリシーで指定されている安全在庫の要件
- カバーの予測日数 (週): プランのタイムバケット設定に応じた供給の予測日数 (週)

注文の詳細を確認する

システムは注文ビューを提供し、プランナーが計画の背後にあるトランザクションデータをドリルダウンできるようにします。このビューは、メイン表形式ビューのユーザーの選択に基づいて自動的にフィルタリングされます。ユーザーは、Supply Plans ビューで注文数量をクリックして注文詳細ビューに移動し、リンクを選択できます。注文詳細ビューには、その特定の供給数量に関連付けられた対応する供給注文が表示されます。たとえば、供給数量が特定の週のすべての未処理の発注書の合計を表す場合、注文詳細ビューを表示して、対応する未処理の発注書の詳細を表示できます。

注文の詳細を編集する

ユーザーは、生成された計画された注文を確認し、数量の調整や注文開始日と予定配達日の更新などの変更を行うことができます。デフォルトでは、ユーザーが調整を行うと、変更された注文は自動的に確定注文としてマークされ、プランの再実行中に保持されることを示します。注文が調整されたら、ユーザーは再実行ボタンをクリックして供給計画を再計算し、これらの変更の影響が計画全体に反映されるようにする必要があります。この再実行中、システムはこれらの確定した注文を尊重し、再計算しないため、プランナーの意図が維持されます。

供給計画の発行

プランナーが供給計画を確認して改良したら、最終計画を公開してダウンストリームプロセスで利用できるようにします。

需要計画を公開するには:

1. 総合的なパフォーマンスメトリクスを確認して、供給計画の品質が標準を満たしていることを確認します。
2. 計画チームと調整して、必要な調整がすべて完了していることを確認します。
3. Publish Plan をクリックしてリクエストを処理します。
4. システムは、公開されたプランを設定済みの Amazon S3 フォルダに自動的に保存します。

一般的な問題と解決策

一般的なデータの問題

需要履歴の日付形式が混在している

ソースシステムでは、日付を DD/MM/YYYY、MM/DD/YYYY、または YYYY-MM-DD としてエクスポートできます。場合によっては、同じファイル内にあります。システムはこれらを誤って解析し、間違った月に注文を割り当てる可能性があります。

修正: エクスポートプロセスで日付形式を標準化します。ソースを制御できない場合は、データフロー SQL に日付検証を追加します。

注文履歴の負の数量

クレジットノート、リターン、または取り消しは負の数量として表示される場合があります。これらは需要平均を歪め、モデルを混乱させる可能性があります。

修正: 正の数量のみにフィルタリングするか、注文ステータス (有料/請求された注文のみなど) でフィルタリングします。

レコード数がソースシステムと一致しません

- 最も一般的な原因は複合キーの衝突です。2つのレコードが同じ一意の識別子を共有している場合、一方はもう一方のレコードを上書きします。
- データマッピングのフィルター条件が、表示される予定のレコードを除外する場合にも発生する可能性があります。

チームが不一致を追跡できるように、特定の product+site の例と予想されるレコード数を指定します。

ERP に存在しない注文がシステムに表示される (またはその逆)

- レポート実行の間に受理または削除された注文は、次の更新から消えますが、前日のデータから生成された例外に表示される場合があります。
- 新しく作成された注文は、次のデータ更新まで表示されません。

これは予想される動作です。例外は、新しいデータロード後の次の評価サイクルで更新されます。

プラン入力ファイルには、他の工場やビジネスユニットの製品が含まれません。

ソースシステムのエクスポートに予測プロジェクトの範囲外の製品が含まれている場合:

- システムは製品マスターに自動的にフィルタリングされます。製品マスターファイルに存在する製品のみが予測に含まれます。ただし、入力ファイルの大部分が範囲外の場合 (行の 50% 以上など)、これはソースエクスポートを厳しくする必要があることを示します。
- 製品カバレッジレートを定期的に確認します。各データロードの後、売上および予測入力ファイル内の製品の割合が製品マスターと一致することを確認します。カバレッジが 80% を下回る場合は、ソースエクスポートの範囲が変更されているか、製品マスターを更新する必要があるかを調べます。
- プラン入力の対象 Out-of-scope の製品は、合計が肥大化する可能性があります。EDI または SIOP ファイルに他の植物の製品が含まれている場合、総予測シグナルは必要以上に高くなります。ロードする前に、プラン入力ファイルが製品マスターと同じ製品スコープにフィルタリングされていることを確認します。

一般的な例外と推奨事項の問題

同じ product+site が例外リストに複数回表示される

これは、基盤となるルールが射影期間内の適格な日付ごとに個別の例外を生成する場合に発生する可能性があります。

サポートチームに連絡して、製品 + サイトあたりの最も早い違反日にのみフラグを付けるようにルールを調整します。

レコメンデーションがグラフに表示されるものと一致しない

レコメンデーションは、例外の作成時に利用可能なデータを分析する AI エージェントによって生成されます。それ以降にデータが変更された場合、レコメンデーションは、最新でなくなった注文または数量を参照する場合があります。

- 例外のタイムスタンプを確認します。1 日以上経過している場合、レコメンデーションは古くなる可能性があります。

- レコメンデーションが明らかに間違っている場合 (例: はグラフに表示される大きな順序を無視する)、親指を下げてフィードバックを提供し、特定の例外をサポートチームに報告します。

影響日または「Act By」の日付が間違っているように見える

- 影響日には、インベントリの問題がいつ始まるか (例: 在庫切れがいつ始まるか、または超過がしきい値を超えたか) が表示されます。
- 「Act By」の日付はリードタイムを考慮して、問題がマテリアライズされる前に行動する時間を確保する必要があります。Act By が影響日と等しい場合、リードタイムは組み込まれない可能性があります。これをサポートチームに報告してください。

ERP で見つからないレコメンデーションリファレンスオーダー

ERP スナップショットは毎日変更されます。昨日のレコメンデーションで参照されている注文は、今日の ERP 実行で受理、キャンセル、または再スケジュールされている可能性があります。

これは、ERP ベースのデータの既知の制限です。履歴消費データを追加して、コンテキストを改善できます。

一般的な精度の問題

予測が単純移動平均よりも大幅に悪い

ASC 予測が総 WAPE で 6 か月の移動平均に減少している場合は、次の一般的な原因を確認してください。

- 範囲内の少量/非アクティブな製品が多すぎます。疎で断続的な需要を持つ製品は、どのモデルでも単純な平均を上回るのは困難です。事前処理ルールを使用して、需要履歴が意味のある製品 (需要が 6 か月以上ゼロでない製品など) に予測を絞り込みます。
- 古い履歴や汚染された履歴に関するトレーニング。注文履歴が何年もさかのぼる場合、古い需要パターンは現在の現実を反映していない可能性があります。トレーニング履歴を最新の 3~5 年に制限したり、異常な期間 (例: COVID) を正規化された値に置き換えたりするには、前処理ルールを検討してください。
- 1 回限りの注文からの需要の急増。1 つの大きな一括注文では、トレーニングデータに誤った増加傾向が生じる可能性があります。前処理ルールを使用して、異常な毎月の需要値を末尾の平均の倍数 (例: 5 倍) で制限します。

- コンセンサスルールが間違った方向に適用されます。LLM エージェントはルール言語を誤って解釈する可能性があります。「27% の減少」は、引き上げとして適用される場合があります。特定の製品と月を比較して、ベースラインに対するコンセンサス出力を常に検証します。方向言語 (「27.5% 減少」) ではなく、明示的な乗算言語 (「0.725 を掛ける」) を使用します。

過大予測バイアス (予測が実績よりも体系的に高い)

正のバイアスは、カタログ全体で必要以上に注文していることを意味します。一般的な原因:

- モデルは成長期間にトレーニングされます。最近の成長が継続していない場合、モデルは存在しなくなった傾向を推定します。
- コンセンサスルールは上方調整を重ねています。予測を引き上げる複数のルール (在庫切れバイアス、トレンドブースト、季節的な引き上げ) が混在する可能性があります。アクティブなルールを確認し、それらがすべて同じ製品に適用されているかどうかを確認します。
- 対象範囲内の製品を削除/中止しました。需要が減少するが、まだ予測中である製品には、体系的な過剰予測が表示されます。

過小予測バイアス (実績よりも体系的に低い予測)

負のバイアスは、一貫して実際の需要よりも少ない需要を予測し、潜在的な在庫切れやコストの迅速化につながることを意味します。一般的な原因:

- 外部予測シグナルが組み込まれていません。計画入力 (EDI 顧客予測、SIOP 生産計画など) がロードされているが、コンセンサスルールが適用されていない場合、予測はデフォルトで統計ベースラインになります。これは、プランナーが表示する需要シグナルをキャプチャしない可能性があります。ConsensusForecast エクスポートと Forecast (ベースライン) エクスポートを比較して、コンセンサスルールが出力を実際に変更していることを確認します。同じ場合、ルールは発射されません。
- アグリゲートをプルダウンするスパース製品とサイトの組み合わせ。productxsite 粒度で予測しても、多くの組み合わせの需要がゼロまたはほぼゼロである場合、モデルは非アクティブな組み合わせに対してゼロ以外の小さな予測を生成します。これらは個々に加算されるのではなく、合計予測を実際の値より下にドラッグします。前処理ルールを使用して需要履歴が不十分な組み合わせを除外するか、プラン入力で条件付きゼロフィルを使用して非アクティブな組み合わせの「予想需要なし」を明示的に通知します。
- モデルは最近の成長傾向を把握していません。統計モデルは履歴データを重み付けします。ここ数か月でビジネスが大きく成長したが、モデルに数年にわたる少量の履歴がある場合、トレンドは遅

れます。これは通常、モデルがより新しいデータを蓄積するため、時間の経過とともに改善されます。その間、最近の実績の過去平均を外部予測週の下限として使用するコンセンサスルールを検討してください。

- Year-over-year季節性の不一致。今年の需要パターンが過去数年と異なる場合 (例: 早期の季節的な増加、新製品の発売)、モデルは異なる期間に過小予測される可能性があります。バイアス不足が、前年のパターンとは異なる特定の週または月に集中しているかどうかを確認します。

予測精度は、より長い期間に大幅に低下します

予測期間の増加に伴って精度が悪化するのとは正常です。1 週間目は常に 8 週間目よりも正確です。ただし、劣化が予想よりも急激である場合:

- 外部シグナルは短期的にのみ役立ちます。最初の数週間に顧客予測 (EDI) を組み込むコンセンサスルールがある場合、精度は短期的に大幅に向上し、ルールの適用が停止すると低下します。これは予想されます - ブレンドアプローチ (例: 外部シグナルとベースラインの 50/50 のブレンドを中期的な週) でより多くの週をカバーするようにルールを拡張することを検討してください。
- ベースラインは、より長い期間で長期平均に戻ります。統計モデルは、より長い期間では自信がなくなり、履歴平均に向かう傾向があります。最近の需要が過去の平均を上回っている場合、外部週は偏りが少なくなります。これはモデルの動作であり、設定の問題ではありません。
- 需要の変動性により、地平線が長くなります。需要がweek-to-week性が高い場合 (変動係数 > 0.5)、完全なモデルでも、より長い期間に高いエラーが表示されます。精度評価は、最初の 3~4 週間に集中します。これは、ほとんどのオペレーションで実行可能な計画期間です。

外部予測 (EDI/顧客予測) をコンセンサスルールで使用する精度が向上しない

外部予測を組み込むコンセンサスルールを追加したが、精度が向上していない場合:

- 外部シグナルが十分な製品をカバーしていない可能性があります。EDI または顧客予測は通常、製品カタログのサブセット (多くの場合 30~50%) のみを対象とします。外部シグナルのない製品は、引き続きベースラインを使用します。カバレッジレートを確認します。50% 未満の場合、集計精度への影響は制限されます。
- 外部信号が十分に正確ではない可能性があります。ルールで使用する前に、外部予測の精度を個別に測定します。WAPE がベースラインよりも悪い場合、WAPE を組み込むと、役に立ちません。外部シグナルが明らかに優れている特定のサイトまたは製品 (ボリューム加重 WAPE が 50% 未満など) にルールを制限することを検討してください。

- 外部シグナルはゼロを報告しません。多くの EDI システムは、アクティブな注文を持つ製品のレコードのみを送信します。明示的にゼロを報告するのではなく、需要がゼロの製品を除外します。コンセンサスルールに「EDI = 0 の場合、予測を 0 に設定する」と書かれている場合、ゼロレコードがないため、発生しません。外部シグナルがなく、最近の販売履歴がない製品とサイトの組み合わせについては、前処理で合成ゼロレコードを生成する必要があります。
- 外部信号の精度は地平線によって異なります。通常、顧客予測は翌週に最も正確で (基本的に確認された注文)、急速に低下します。外部シグナルを数週間にわたって直接使用するルールは、より長い期間の精度を損なう可能性があります。階層型アプローチを検討してください。1~3 週間は直接置き換え、4~6 週間はブレンド、7 週間以上はベースラインのみ。

計画ルールが有効でない

コンセンサスルールが予測を変更していないように見える場合:

- ルールが優先度の高いルールによって上書きされている可能性があります。ルールは優先順位で適用されます。後のルールでは、以前のルールを元に戻すことができます。ルールの順序を確認します。
- ルール条件はどの製品とも一致しない場合があります。ルールが項目メタデータにない製品属性 (product_group_id など) を参照している場合、ルールは何も一致しません。
- ルール言語が誤って解釈されました。LLM エージェントは自然言語からコードを生成します。あいまいなフレーズを使用すると、予期しない結果が生じる可能性があります。できるだけ具体的にタリテラルにしてください。正確なフィールド名、明示的な乗数、クリア条件を使用します。

コンセンサスプランの出力がベースライン予測と同じである

ConsensusForecast エクスポートの値が Forecast (ベースライン) エクスポートと同じ場合、コンセンサスルールは実行されませんでした。一般的な原因:

- 結合のディメンションが一致しません。コンセンサスエンジンは、ディメンション列 (製品 ID、サイト ID、日付) のベースラインにプラン入力を結合します。列名がベースラインと計画入力で異なる場合 (たとえば、ベースラインは item_id を使用し、EDI は product_id を使用する)、結合は一致せず、すべてのルールがベースラインのデフォルトにフォールスルーされます。データフロー設定のディメンションマッピングが 2 つのスキーマ間で正しくマッピングされていることを確認します。
- 日付形式が一致しません。ベースラインには日付が 2026-03-02 として保存され、計画入力には 2026-03-02T00:00:00.000Z として保存される場合があります。結合に完全一致が必要な場合、タ

タイムゾーン対応の日付とタイムゾーンナインブの日付は一致しません。結合する前に、日付列が同じ形式に変換されていることを確認します。

- プラン入力がないロードされていません。プラン入力ファイル (EDI、SIOP など) が正常に取り込まれたことを確認します。システム内のレコード数を確認します。プラン入力の行がゼロの場合、ファイルのロードに失敗した可能性があります。
- コンセンサス forecast_id はベースライン forecast_id と一致します。両方のエクスポートが同じ forecast_id を共有する場合、コンセンサスエンジンは処理せずにベースラインの直接コピーを生成しました。これはシステムレベルの問題を示します。forecast_id と demand_plan_run_id のサポートチームにお問い合わせください。

コンセンサスルールが間違った製品やサイトに適用される

特定のサイトまたは製品カテゴリにのみ適用すべきルールがカタログ全体に影響を与えている場合:

- サイト/製品フィルター条件が間違った列を参照している可能性があります。ルールに「[list] のサイトに適用」と表示されているが、生成されたコードが、存在しない列や異なる値を持つ列をチェックする場合、フィルターはすべての行をサイレントに渡すことがあります。ルールの影響を受けない特定の製品をスポットチェックして検証します。
- ルールの優先順位は逆になる場合があります。ルールは、後のルールが以前のルールを上書きするチェーンとして適用されます。広範なルール (例: すべてのベースラインを使用) が特定のルール (例: これら 50 のサイトに EDI を使用) の後に適用される場合、広範なルールは特定のルールを元に戻します。ルールの説明に優先順位が明確に記述されていることを確認します。

予測値は小数 (2,500.37 ユニットなど)

統計モデルは整数ではなく連続値を生成します。ビジネスがユニット全体、ケースパック、または最小注文数量で取引する場合:

- 最終的なコンセンサスステップとして四捨五入ルールを追加します。他のすべてのコンセンサスルールの後に適用される単純な「最も近い整数に丸める」ルールは、小数値をクリーンアップします。0.5 未満の値はゼロに丸められ、非常に需要の少ない組み合わせに適しています。
- 運用数量への四捨五入を検討してください。製品が標準パックサイズ (例: 12 ケース、パレット 48) で出荷されている場合、最も近い有効なパックサイズに丸めると、予測のユーザビリティと精度の両方が向上する可能性があります。これには、製品マスターのパックサイズデータが必要です。MOQ またはパックサイズのデータをサポートチームと共有して、このオプションを確認します。

前処理ルールを追加した後、製品カバレッジが大幅に低下する

トレーニングデータをフィルタリングする前処理ルール (「需要が 8 週間以上ない予測製品のみ」など) は、データが productxsite レベルでスパースである場合、予測内の製品数を大幅に減らすことができます。

- 粒度を確認します。製品レベルでは 52 週間の需要があり、個々の製品とサイトの組み合わせでは 3 週間しか需要がない場合があります。productxsite レベルで適用される最小履歴しきい値は、ほとんどの組み合わせを除外します。代わりに、しきい値を製品レベルで適用するか、しきい値を大幅に下げることを検討してください。
- デプロイする前にテストします。前処理ルールをアクティブ化する前に、フィルターに合格した製品とサイトの組み合わせの数と現在の合計をカウントします。20% 以上を除外すると、ルールが過度に攻撃的になる可能性があります。寛容なしきい値から始めて、徐々に絞り込みます。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。